

# 山ノ井南野遺跡II

福岡県筑後市大字山ノ井所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第59集

2005

筑後市教育委員会

やま の いみなみの いせき  
山ノ井南野遺跡II

やま の いみなみの  
山ノ井南野遺跡第3次調査

やま の いみなみの  
山ノ井南野遺跡第4次調査

2005

筑後市教育委員会

# 序

本書は、平成16年度に行った山ノ井南野遺跡の埋蔵文化財調査報告書です。

当市は国道209号が南北に、国道442号が東西に走り、九州自動車道八女インターチェンジ、JR 羽犬塚駅など交通の要所です。今回報告する山ノ井南野遺跡第2・3次調査からは、当市を縦断していたと推定されております古代の道「西海道」が姿を現しました。この道路を使って古代の人々が往来していた痕跡が残されていました。調査結果から当市が古くから交通の要所として発展してきたことが明らかになってきました。

全国的に見ても古代の道路遺跡の調査事例は目を見張るものがあり、人々が生活をしていく上で欠かすことのできない「道」の復元が今回の発掘調査で明らかになってきました。

本書を学術研究の一助として、また生涯学習や社会教育等の資料として活用いただければ幸いです。

本報告にあたり、地権者の方々、関係者各位に文化財へのご理解、ご協力を賜ったことを深く感謝申し上げます。

平成17年3月

筑後市教育委員会

教育長 城戸 一男

## 例 言

1. 本書は平成16年度に筑後市教育委員会が行った山ノ井南野遺跡第3次、4次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物・図面・写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第I章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構実測図は3次を上村英士、阿比留士朗、4次を上村が作成し、遺物の実測、浄書は3・4次共に仲文恵が行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は3次・4次を上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は、国土調査法第II座標系を基準としており、方位は全て座標北(G.N)である。
7. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による。  
SD-溝 SK-土壙 SP-ピット SX-不明遺構 SF-道路状遺構  
また、本文中の「○×○」の表記については両方の可能性があるという意味である。

○      SD      01  
調査次数   遺構種別   遺構番号

8. 本書の執筆・編集は上村が行った。

## 目 次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	1
III. 調査成果	3
山ノ井南野遺跡第3次調査	3
山ノ井南野遺跡第4次調査	16
IV. まとめ	27
写真図版	

## I. 調査経過と組織

今回報告する山ノ井南野遺跡は当市のほぼ中心部に存在し、各種の開発事業等により市街化している地域である。今回報告する山ノ井南野遺跡第2・3次調査に関する経緯については、各報告部分の「(1)はじめに」に記載している。遺物・図面整理及び報告書作成については、平成16年度に筑後市文化財整理室にて行った。

なお、発掘調査及び整理作業の関係者は次のとおりである。

### 調査組織

平成16年度

筑後市教育委員会

総括	教育長	城戸 一男
	教育部長	菰原 修
庶務	社会教育課長	田中 僚一
	文化スポーツ係長	成清 平和
	文化スポーツ係 (文化財担当)	永見 秀徳
		小林 勇作
		上村 英士 (調査・報告担当)
		立石 真二
		阿比留士朗

### 5) 発掘調査参加者

地元有志

### 6) 整理作業参加者

整理補助員 平塚あけみ 仲文恵  
整理作業員 野間口靖子 野口晴香 横井理絵 佐々木寿代

尚、調査及び整理に際しては次の方にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

小池史哲(福岡県教育庁) 小田和利(九州歴史資料館)、斎部麻矢(福岡県南筑後教育事務所)、大塚恵治(八女市教育委員会)、白木守(久留米市教育委員会) 中島恒次郎、山村信榮(太宰府市教育委員会)、小鹿野亮(筑紫野市教育委員会) 木本雅康(長崎外国語短期大学)

## II. 位置と環境

### (1) 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR 鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は、国道に沿って市の中心部に形成されている。

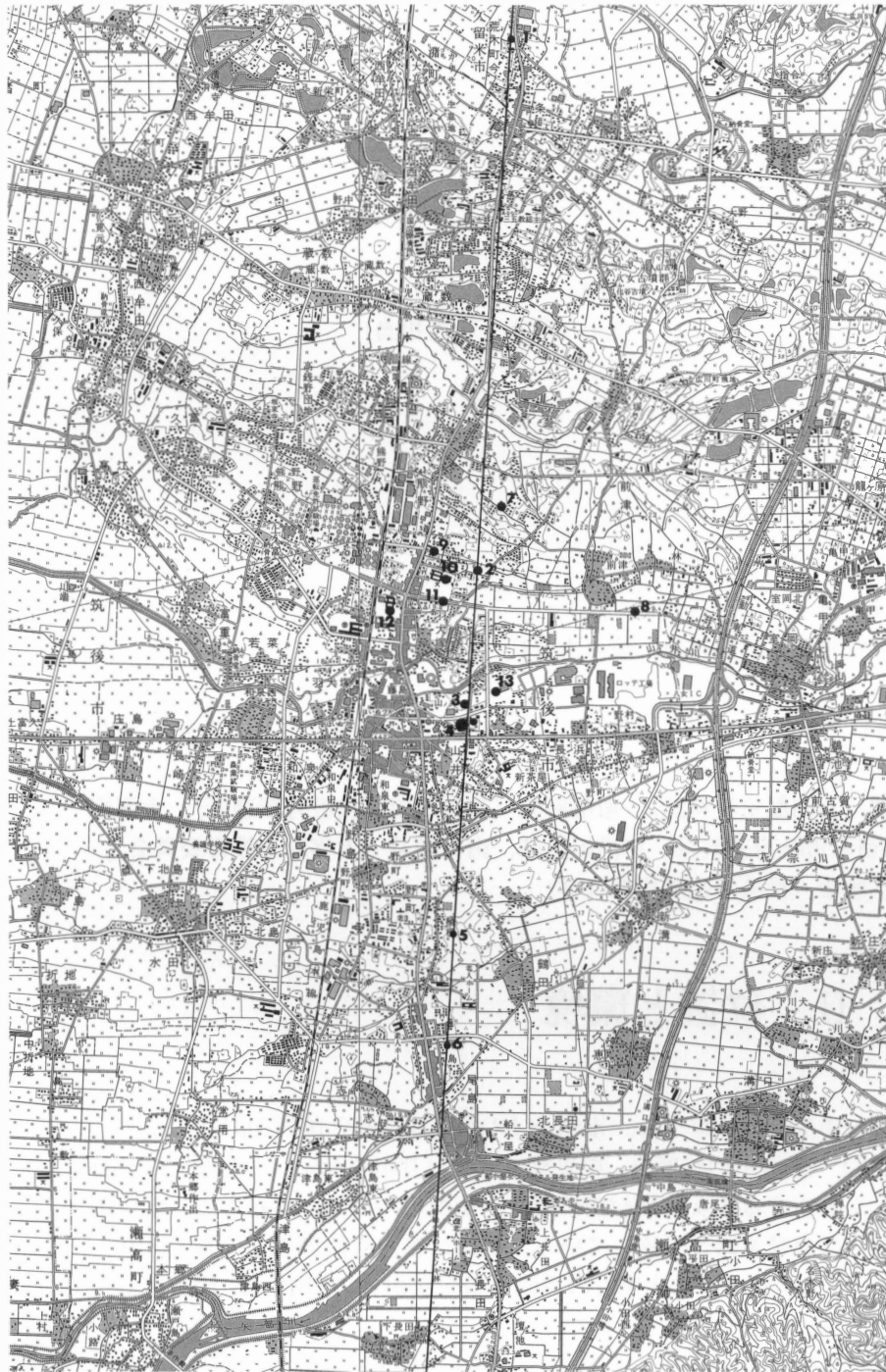
## (2) 山ノ井南野遺跡の発掘調査における環境

今回報告する山ノ井南野遺跡は平成14年度に第1次調査が行われ(筑後市文化財調査報告書第56集)、平成16年度に第2次調査(筑後市文化財調査報告書第64集)、第3・4次調査を行っている。

今回報告する山ノ井南野遺跡第3次・4次調査(以下、「各調査地」とする)は平成16年度に更新された「筑後市文化財分布地図」に「西海道跡」として登録された遺跡所在地であり、各調査地は隣接する一体の土地であるが、開発原因者や事業の違いから調査体制や期間については別々の対応を行っている。

各調査地近隣の遺跡については、北に約100mの地点で西海道跡を検出した山ノ井川口遺跡(筑後市文化財調査報告書第45集)、東北に約200mの地点で中世の遺跡である徳久中牟田遺跡(筑後市文化財調査報告書第19集)が存在する。

なお、当市内で調査された西海道跡は今回で6遺跡、10件目の調査である。



1. 西海道跡(第2次)  
(久米市文化財調査報告書第140集 1998年)
2. 羽犬塚山ノ前遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第48集 2003年)
3. 山ノ井川口遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第45集 2002年)
4. 山ノ井南野遺跡第3次・4次
5. 鶴田牛ヶ池遺跡第2次・鶴田木屋ノ角遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第36集 2001年)
6. 鶴田中市ノ塚遺跡第1・3・4次  
(筑後市文化財調査報告書第45集 2002年)
7. 前津中ノ玉遺跡第1・2次  
(筑後市文化財調査報告書第4集 1987年、  
第22集 1999年)
8. 前津柳ノ内遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第55集 2004年)
9. 羽犬塚源ヶ野遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第49集 2003年)
10. 羽犬塚中道遺跡第1次～5次  
(筑後市文化財調査報告書第47集 1995年  
第3次のみ)
11. 羽犬塚射場ノ本遺跡第1次～3次  
(筑後市文化財調査報告書第17集 1995年  
第1・2次のみ)
12. 羽犬塚寺ノ脇遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第24集 2002年)
13. 徳久中牟田遺跡  
(筑後市文化財調査報告書第19集 1999年)

Fig. 1 西海道周辺 調査地点位置図 (1/50000)

### III. 調査成果

#### 山ノ井南野遺跡第3次調査

(1) はじめに

調査地は筑後市大字山ノ井字南野に所在する。平成15年度に当該地についての文化財の所在について照会があり、当該地が文化財包蔵地である旨を伝え、開発事業者である馬場美津宏氏から平成16年2月25日に試掘・確認調査依頼が提出された。現地での確認調査を行ったところ、西海道跡を検出したため協議を行い、発掘調査が必要である旨を伝えた。当該地に建築される建物は専用住宅兼店舗であるため調査費用に関しては、面積案分により専用住宅部分について国庫補助金、県費補助金、市文化財保護部局で負担し、店舗等については原因者である馬場美津宏氏に負担いただいた。調査面積は約990㎡、排土置き場の関係上、反転調査を行い、調査期間は平成16年5月28日～7月9日迄である。発掘調査は上村英士が担当した。

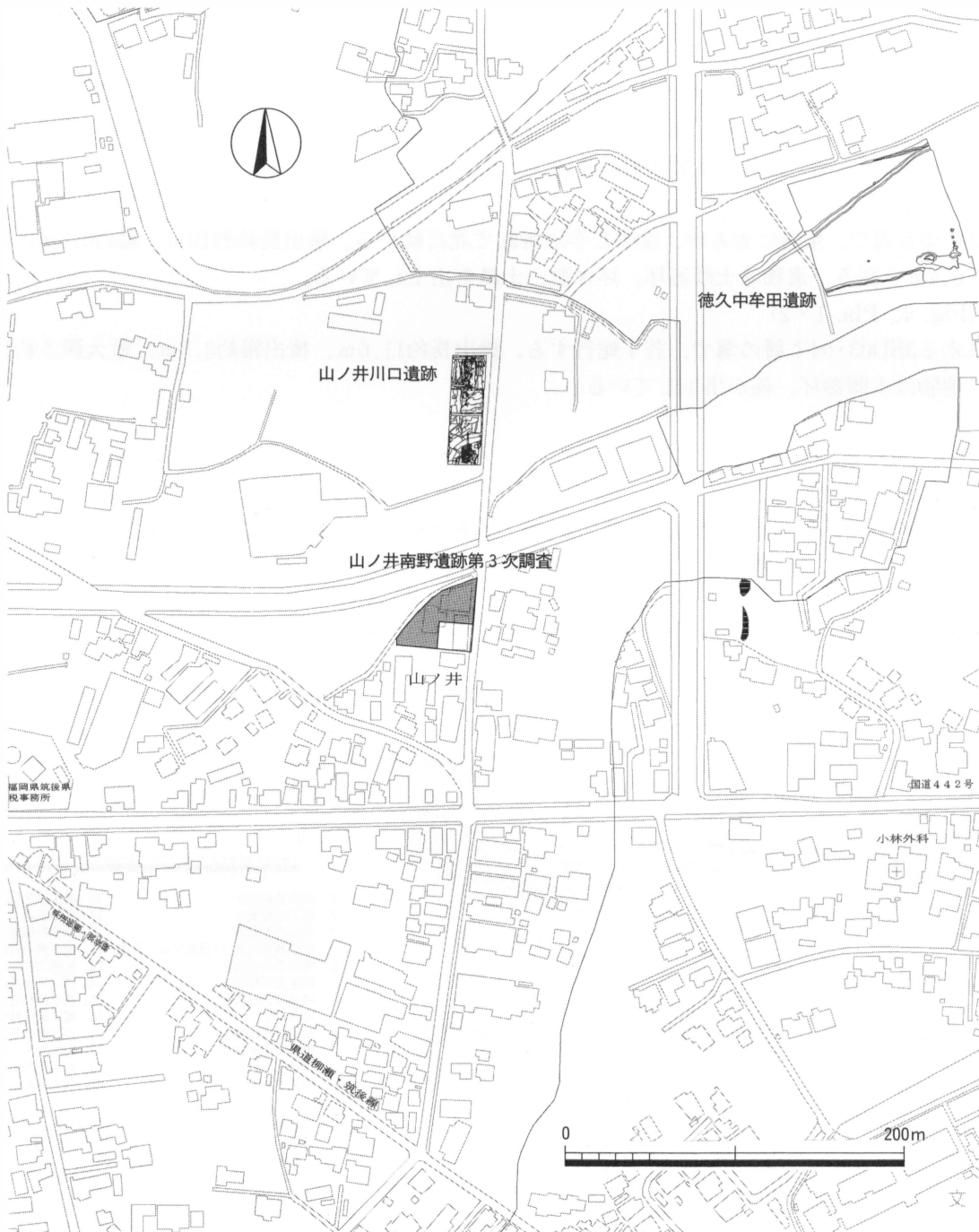


Fig. 2 調査区地点位置図 (1/4000)

## (2) 検出遺構

### 基本土層

遺構面までの掘り下げは重機で行っている（有限会社徳光建設に委託）。現況の標高は約15m程であり、遺構面までは現代の盛り土が約0.35m、暗黒色土が0.3m、茶褐色粘質土が0.15mあり、これらを除去した淡黄褐色土に全ての遺構は切り込んでいる。従って、遺構検出面の標高は約14m程である。地山と捉えられる層は、4層確認しており、マンガンを多量に含む淡黄褐色土、淡黄色粘質土、黄色粘質土（八女粘土）、暗灰色粘質土で構成される。

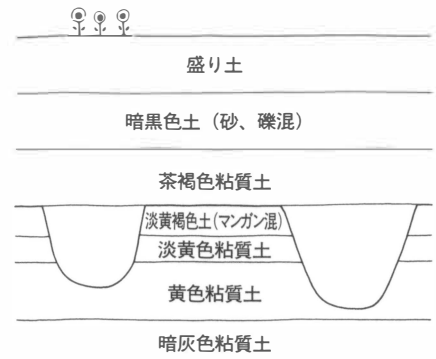


Fig. 3 基本土層模式図

### 溝

#### 3SD03 (Pla. 1・2)

調査区西南隅で検出した溝状の遺構で3SD05の上層部分にあたり、掘り直し（浚渫）の可能性も考えられる。最大検出幅約7.0m、検出長約10.7mを測る。遺物は須恵器杯、甕、蓋、鉢（東播系）、土師器杯（糸切り）小皿（糸切り）、椀、大甕、鉢、土鍋、火鉢、青磁碗（龍泉窯系）、染付、陶器甕×壺、拵鉢、瓦質土器鉢を出土している。

#### 3SD04 (Pla. 1・2)

3SD03を切る溝で、東西に走るが、途中L字に折れて北に延びる。検出長約16m、幅約0.8m、深さ約0.35m～0.4mを測る。遺物は土師器杯、杯×皿、土鍋を出土している。

#### 3SD05 (Fig. 4, Pla. 1・2)

南北に走る3SD03・04下層の溝で、若干蛇行する。検出長約11.6m、検出幅約3.5m、最大深さ約1.07mを測る。遺物は土師器杯、椀が出土している。

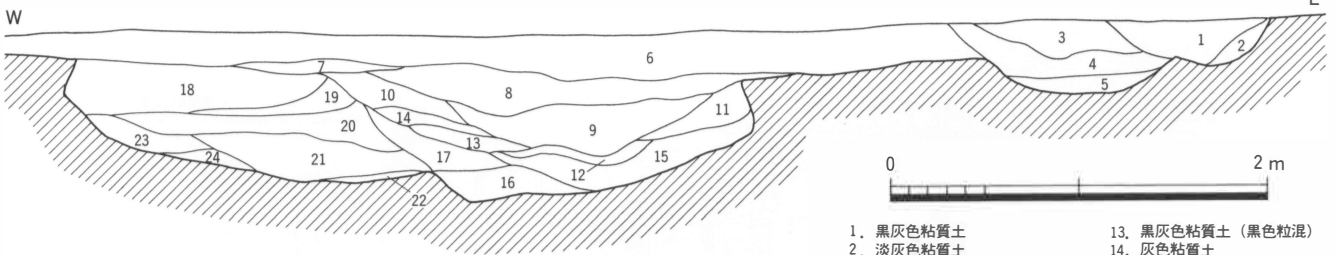
### 土壇

#### 3SK01 (Fig. 5, Pla. 2・3)

調査区南西端で検出した土壇で検出長軸約1.2m、短軸約0.85m、深さ約0.46mを測る。長軸の方位はG.N-39°54'28"-Wである。壇底はほぼフラットである。遺物は土師器片のみである。

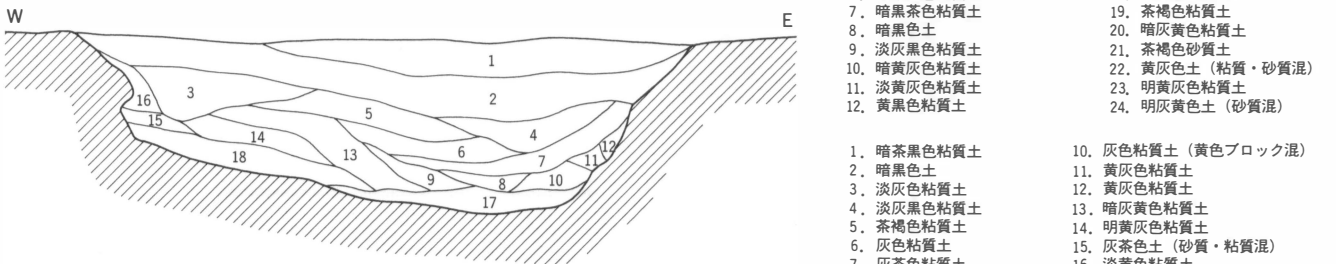
#### 3SD05北土層

14.20m



#### 3SD05南土層

14.20m



- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 黒灰色粘質土            | 13. 黒灰色粘質土 (黒色粒混) |
| 2. 淡灰色粘質土            | 14. 灰色粘質土         |
| 3. 灰黄色粘質土            | 15. 灰茶色粘質土        |
| 4. 明灰黄色粘質土 (黄色ブロック混) | 16. 淡灰黄色砂質土       |
| 5. 暗黒色粘質土            | 17. 灰黒色粘質土        |
| 6. 暗茶黒色粘質土           | 18. 淡灰色粘質土        |
| 7. 暗黒茶色粘質土           | 19. 茶褐色粘質土        |
| 8. 暗黒色土              | 20. 暗灰黄色粘質土       |
| 9. 淡灰黒色粘質土           | 21. 茶褐色砂質土        |
| 10. 暗黄灰色粘質土          | 22. 黄灰色土 (粘質・砂質混) |
| 11. 淡黄灰色粘質土          | 23. 明黄灰色粘質土       |
| 12. 黄黒色粘質土           | 24. 明灰黄色土 (砂質混)   |

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 1. 暗茶黒色粘質土 | 10. 灰色粘質土 (黄色ブロック混)   |
| 2. 暗黒色土    | 11. 黄灰色粘質土            |
| 3. 淡灰色粘質土  | 12. 黄灰色粘質土            |
| 4. 淡灰黒色粘質土 | 13. 暗灰黄色粘質土           |
| 5. 茶褐色粘質土  | 14. 明黄灰色粘質土           |
| 6. 灰色粘質土   | 15. 淡灰色土 (砂質・粘質混)     |
| 7. 灰茶色粘質土  | 16. 淡黄色粘質土            |
| 8. 灰茶色砂質土  | 17. 暗灰色砂質土 (黄色小ブロック混) |
| 9. 灰黒色粘質土  | 18. 淡灰色砂質土 (黄色小ブロック混) |

Fig. 4 3SD05土層図 (1/40)



3SK01

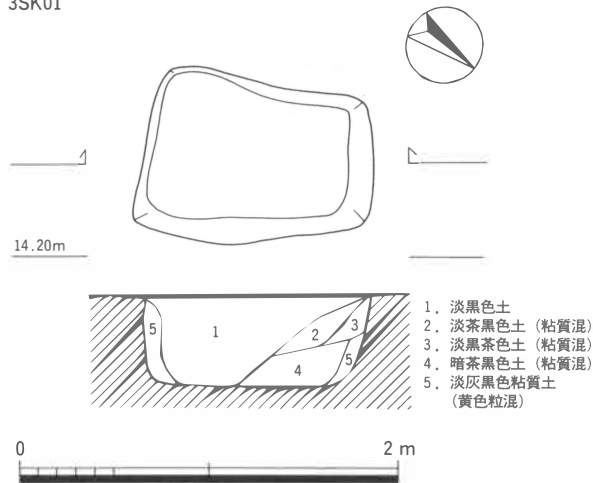


Fig. 5 3SK01実測図 (1/40)

道路遺構

3SF35 (Pla. 1・3~12)

調査区東側で南北に走る道路遺構である。推定西海道駅路ラインにほぼ合致し、西海道駅路の痕跡であるとする。検出された道路遺構に伴う各種パーツ（遺構）は東西両側溝、帯硬化面、ピット（波板状の連続土塊状の可能性有）等である。以下に各パーツ（遺構）について記述する。

側溝

東側溝

3SD30 (Fig. 6, Pla. 3~5)

調査区東端で検出した東側溝である。検出長約24.4m、検出幅約2.4m、最大深さ約1.0mを測る。

溝内の西側面に深さ約0.4m~0.6m程のテラス（掘り直し、浚渫に伴うものか）を検出している。

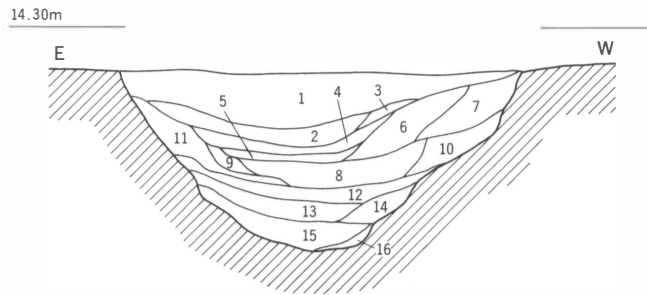
溝底部は直径約40cm程度の連続ピット状を呈し、検出間でのレベルはほぼ同一である。土層観察により、最低2回以上の掘り直しを想定する。遺物は須恵器坏、甕、甕×壺、鉢（東播系）土師器坏、坏×皿、碗、甕把手、白磁皿、碗、青磁（龍泉窯系）碗、瓦器碗、粘土塊、砥石が出土している。

西側溝

3SD25 (Fig. 7, Pla. 6・7)

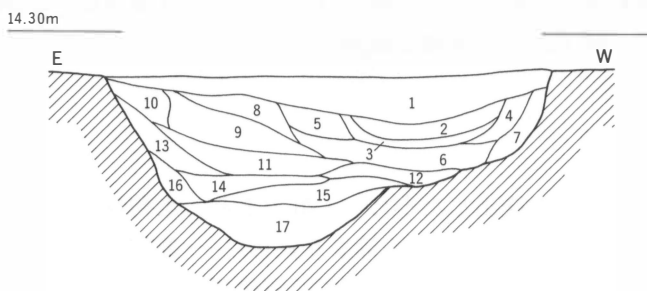
調査区中央で検出した西側溝である。検出長約19.4m、検出幅約1.6m、最大深さ約0.5mを測る。溝内の西側面に深さ約0.2m程のテラス（掘り直し、浚渫に伴うものか）を検出している。溝底部はほぼフラットである。土層観察により最低2回以上の掘り直しを想定する。遺物は須恵器坏、蓋、甕、壺、土師器碗、坏×碗、皿×高坏を出土している。

3SD30南土層



1. 暗黒灰色土
2. 淡灰黒色土
3. 灰黒色土
4. 暗灰色粘質土
5. 明灰褐色粘質土
6. 淡灰褐色粘質土
7. 黒灰色土
8. 淡茶灰色土（粘質・砂質混）
9. 暗茶灰色土（粘質・砂質混）
10. 明灰茶色粘質土
11. 明灰色土
12. 黄茶色土（粘質・砂質混、黄色粒混）
13. 茶灰色粘質土（黄色粒混）
14. 暗灰色粘質土（黄色粒混）
15. 淡黄褐色粘質土（黄色粒混）
16. 暗黄褐色粘質土（黄色粒混）

3SD30北土層

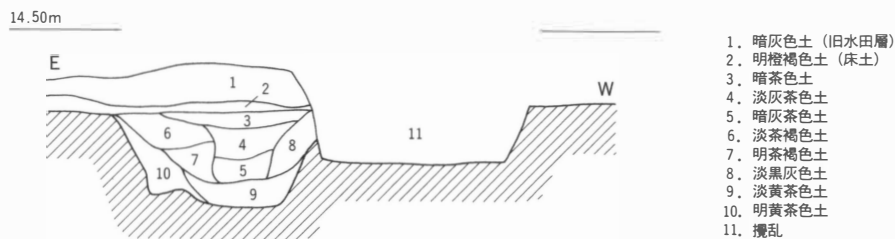


1. 淡茶黒色土（砂混）
2. 暗茶褐色土
3. 暗灰茶色粘質土
4. 茶褐色土
5. 明灰褐色土
6. 暗灰褐色粘質土
7. 暗灰色粘質土（黄色ブロック混）
8. 茶褐色土（砂混）
9. 淡茶黄色土（砂混）
10. 暗黒茶色土
11. 灰茶色土（砂混）
12. 暗黒黒色砂質土
13. 暗灰色粘質土
14. 黄茶色土（砂質・粘質混）
15. 明黄茶色土（砂質・粘質混）
16. 暗黒灰色粘質土
17. 暗灰黄色土（砂質・粘質・炭化物混）

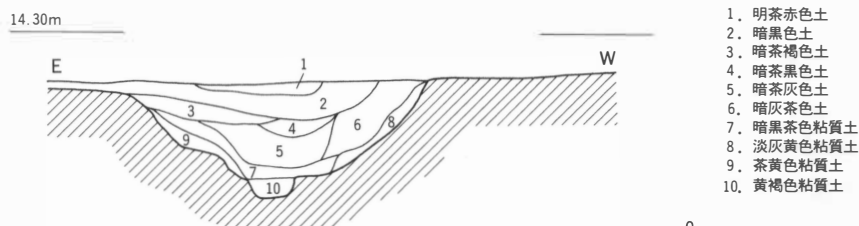


Fig. 6 3SD30土層図 (1/40)

3SD25南土層①



3SD25北土層②



3SD25中央土層



Fig. 7 3SD25土層図 (1/40)

路面部痕跡

落ち込み

3SX20 (Fig. 8・9)

西側溝の立ち上がりから路面部へ最大約2.1mの部分が一部落ち込みである。この埋土を除去した下層から帯状硬化面やピット状の遺構を検出している。路面部からの深さ約0.03~0.05mを測り、路面部から西側溝にかけて緩やかに低くなる。埋土に硬化はない。遺物は須恵器坏、甕、土師器片を出土している。

帯状硬化面

3SX15 (Fig. 8・9、Pla. 8)

西側溝の路面部への立ち上がり部から東へ約0.8m~1.3mの位置にあり、北側が後世の削平により残存していない。検出長約15.5m、検出幅約0.3m、深さ約0.03mを測る。西側溝に比べ若干蛇行しており、埋土は暗茶色土の単層であるが5mm程度の砂粒を含むが硬化はない。硬化は溝底部、側面部であるが、帯状部分外側での硬化も確認している。埋土からの遺物は確認していない。

連続ピット群

3SX06 (Fig. 8、Pla. 9)

調査区南端で西側溝と帯状硬化面の間で検出した小ピット群である。当初現代の攪乱と考えていたが、埋土の状況(黒色系の側溝埋土と近似している、埋土の締め具合)、一部硬化した状況、後の4次調査での状況から道路遺構に関連した遺構と判断している。合計で23個確認しており、平面形状は長方形のピット状を呈し、南北に並ぶ。埋土は黄色粒を多量に含む暗黒色土で部分的に硬化している。遺物は出土していない。

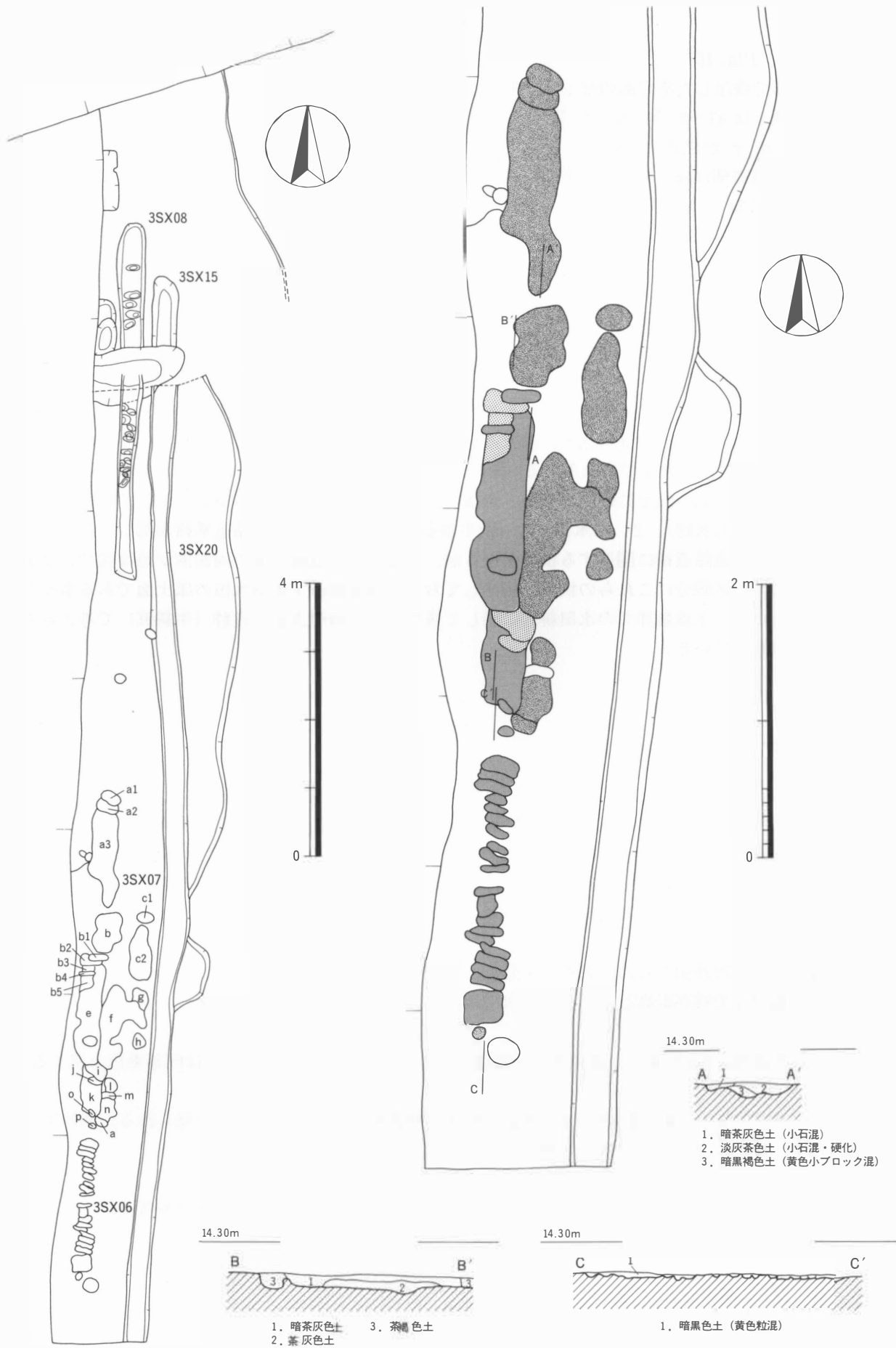


Fig. 8 3SX06・07・08・15実測図 (左平面図1/80、その他は1/40)

### 3SX07 (Fig. 8、Pla. 10)

3SX06の北隣で検出した不定形のピット群である。一部3SX06と同様の長方形のピット群 (b1~5) も検出している。埋土は a1~3、b、c1~2、f、g、h、k、l、m、n、q が直径5mm程度の砂粒を含む茶色土であり、d1~4、e、o、p が黒色土、d2~4、i、j が茶褐色を含む黒色土である。b、e、f の検出面で硬化を確認している。遺構底部は総じて凹凸が激しい状況である。

### 3SX08 (Fig. 8、Pla. 11)

調査区北側で検出した溝状の遺構である。検出長約5.1m、検出幅約0.2m~0.35m、深さ約0.04~0.1m、小ピット状の深さ約0.1mである。埋土は3SX06と同様であり、遺構底部が小ピット状に並ぶ。遺物は出土していない。

### その他の遺構

### 3SX10 (Fig. 10、Pla. 11・12)

調査区北側の道路遺構の路面部で検出した小ピットが密集した痕跡である。直径約0.1m~0.6m程の円形ないしは楕円形を呈し、埋土は灰色系、淡灰茶色系、黒色系、灰黄色土系を確認しており、小さいものは灰色系、大きいものは黒色系で構成される。また、一部で直径0.5cmから3cm程度の砂粒ないしは小石を含むものもある。検出面、埋土に硬化はない。遺構の性格については1. 道路遺構に関連する痕跡 (路面突き固めによる刺突状痕跡)、2. 旧水田に残った牛耕痕、が考えられる。道路遺構路面部でしか確認されていない事が唯一の道路遺構に関連する根拠となるが、旧地形では道路遺構の両側溝が地籍図での境界にあたり、旧水田の一区画分にこれらの痕跡は相当しており、路面部直上が旧水田の床土面である事や北側が水路である事から、土地境界での水田耕作に際して残された牛の引き回し痕跡 (牛耕痕) で考えるのが妥当であると判断している。

## (3) 出土遺物

### 3SD03 (Fig. 11、Pla. 27)

#### 須恵器

蓋 (1) 残存器高1.35cmを測る。内外面ともにヨコナデ、焼成・還元良好である。

甕 (2・3) 2は胴部片で残存器高3.25cm。外面は暗赤茶色で格子目叩き、内面は黒褐色で当て具痕が残る。3は胴部片で残存器高6.9cm。外面は明灰色で平行叩き、内面は灰色で当て具痕が残る。

鉢 (4) 玉縁状の口縁部を形成し、内外面ともに明灰色を呈する。内面には指頭痕が残る、口唇部には暗緑茶色の自然釉がかかる。残存器高5.7cmを測る。東播系か。

#### 土師器

甕 (5) 口縁部片で内外面ともに淡黄褐色を呈し、焼成は不良。残存器高2.75cm。

土鍋 (6) 口縁部片で残存器高2.65cm。玉縁状に端部を折り曲げて成形する。

#### 瓦質土器

火鉢 (7) 残存器高6.8cmを測り、直線的な口縁部を呈する。外面は明灰色、内面は暗茶褐色を呈する。

#### 磁器

青磁碗 (8) 口径17.0cm、残存器高2.5cmを測る。胎土は白色砂粒を含み黒色粒子が見られる。明緑茶色の釉を薄く施す。外面には縦方向の櫛目を施す。同安窯系。

#### 陶器

皿 (9) 底径9.25cm、残存器高1.15cmを測る。胎土は黒色粒子を含み、釉は内外面は明黄茶色で高台部は露胎。高台部に凹みがあり、輪花状を呈すると考えられる。瀬戸美濃系。

鉢 (10) 底径11.3cm、残存器高2.6cmを測り、高台部を繋いだ痕跡が残る。内面には目跡が残る、内外面に黄緑色の釉を施す。唐津系。

### 3SD05 (Fig. 11)

#### 土師器

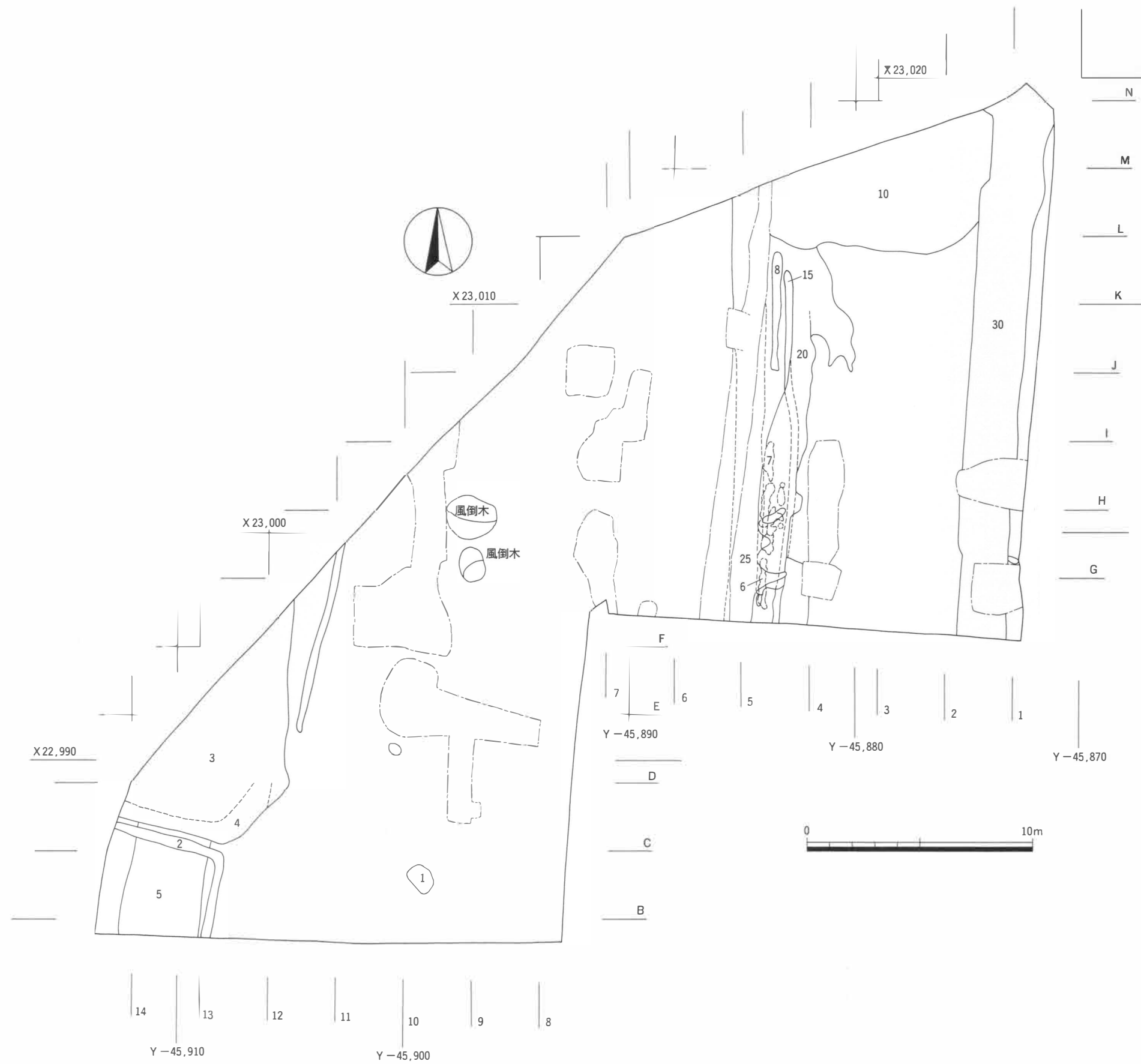


Fig. 9 山ノ井南野遺跡第3次調査 遺構略測図 (1/200)



Fig. 10 3SX10実測図 (1/60)

旧→新				旧→新			
S-番号	遺構番号	備考	地区	S-番号	遺構番号	備考	地区
1	3SK01	土壌	B9	8	3SX08	溝状遺構 20→8	J4
2		攪乱溝	B12	10	3SX10	ピット群 (牛耕痕か)	L3
3	3SD03	溝3SD05の上層部分 3→5	C12	15	3SX15	带状硬化面	F4
4	3SD04	溝 3→4→5	C12	20	3SX20	落ち込み	G4
5	3SD05	溝 3→4→5	A13	25	3SD25	道路遺構西側溝 (3SF35)	F4
6	3SX06	連続ピット群 20→6	G4	30	3SD30	道路遺構東側溝 (3SF35)	F1
7	3SX07	連続ピット群 20→7	H4	35	3SF35	道路遺構 (3SF36)	F2

Tab. 1 山ノ井南野遺跡第3次調査 遺構番号台帳

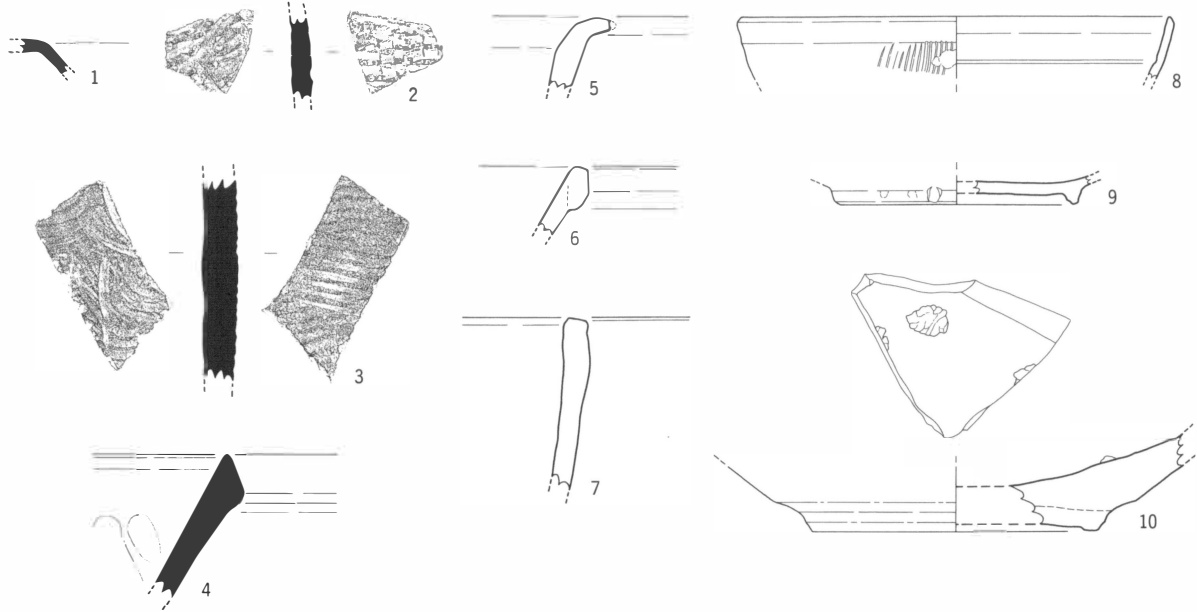
坏 (11・12) 11は口径13.0cm、残存器高3.3cmを測る。内外面ともにヨコナデ、明黄茶色を呈する。12は底径5.85cmを測り、小皿の可能性はある。内外面ともに明黄茶色を呈する。

大椀 (13) 高台径10.55cmを測り、断面台形の高台が貼り付く。内外面共に明黄赤色を呈し、焼成不良。3SF35 (3SD30 北土層1~16層) (Fig. 11、Pla. 27)

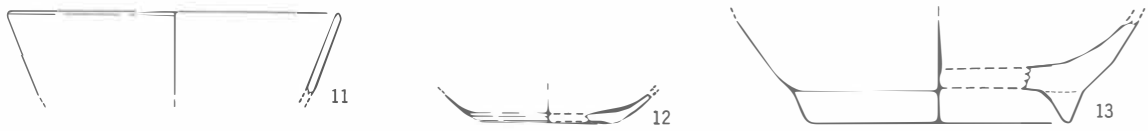
須恵器

大坏 (14) 口径17.5cmを測り、体部下半から内湾するが、途中から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面は暗灰色、内面は灰色を呈し、還元良好である。

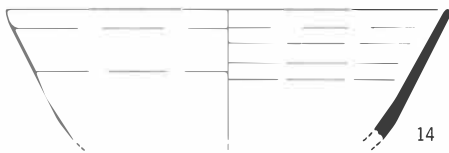
3SD03



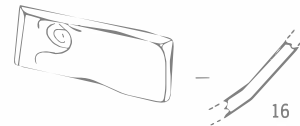
3SD05



3SF35 (3SD30北土層 1層~16層)



3SF35 (3SD30北土層 15層)



3SF35 (3SD30北土層 17層)

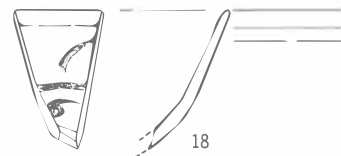
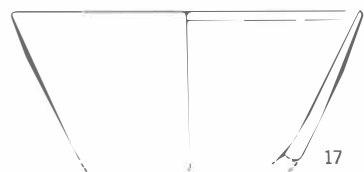
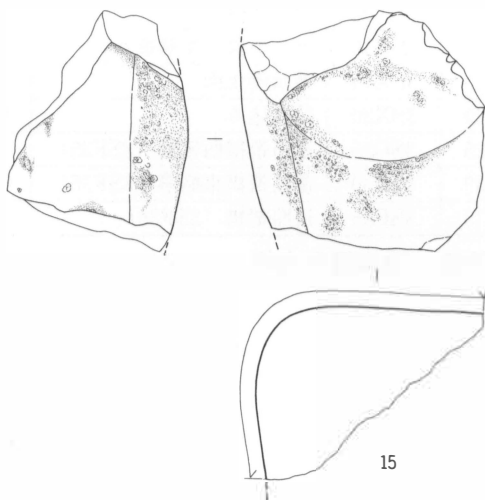
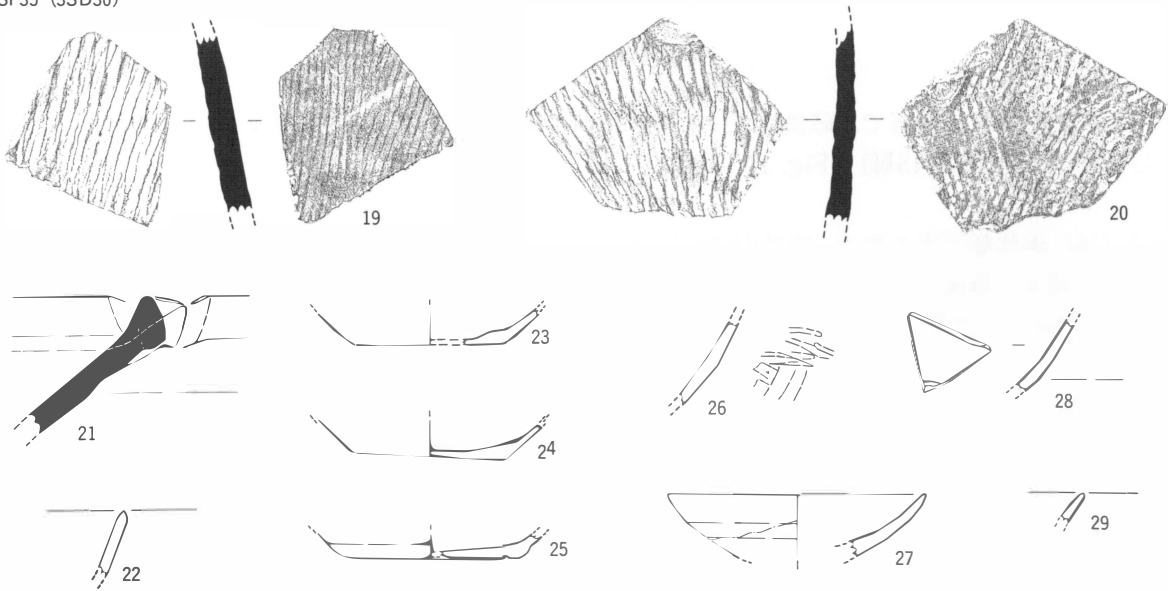
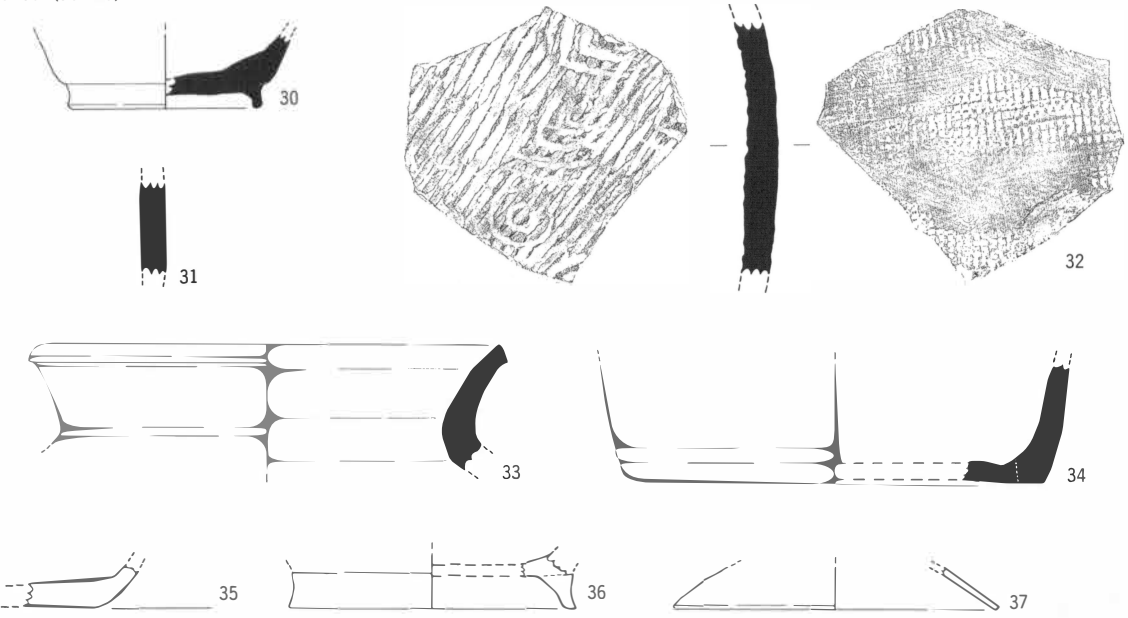


Fig. 11 山ノ井南野遺跡第3次調査 出土遺物実測図 (1/3)

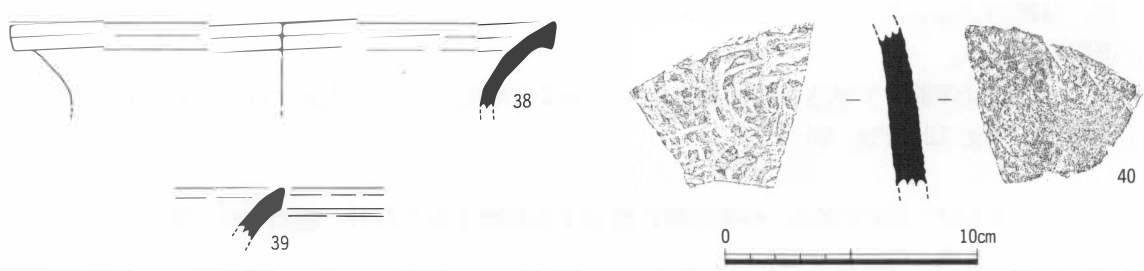
3SF35 (3SD30)



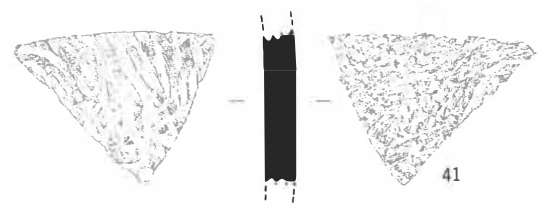
3SF35 (3SD25)



3SX20



3SX15



3SX10

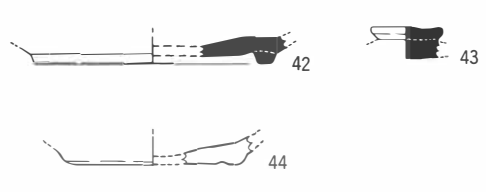


Fig. 12 山ノ井南野遺跡第3次調査 出土遺物実測図 (1/3)



## 石製品

砥石 (15) 安山岩製の砥石で、破損しているが、2面の擦り面が残る。重さ600g。

3SF35 (3SD30 北土層15層) (Fig. 11、Pla. 27)

## 磁器

青磁碗 (16) 碗体部下半の片で、内外面に0.5mm程度に明灰白色の釉を施す。内面に草花文を施し、釉に小さな気泡が残る。龍泉窯系。

3SF35 (3SD30 北土層17層) (Fig. 11、Pla. 27)

## 土師器

坏 (17) 口径13.95cm、残存器高5.9cmを測る。体部から口縁部まで直線的に立ち上がる。調整はヨコナデ。内外面ともに淡黄茶色を呈する。胎土に角閃石を含む。

## 磁器

青磁碗 (18) 体部片で残存器高5.5cmを測る。口縁部外面に稜が入り、内面に文様を施す。暗緑茶色の釉を薄く施す。

3SF35 (3SD30) (Fig. 12、Pla. 27)

## 須恵器

甕 (19・20) 19は胴部片で残存器高7.15cmを測る。外面は暗赤褐色で平行叩き、内面は明黄灰色で平行叩きと当て具痕が残る。還元良好。20は胴部片で残存器高7.8cmを測る。外面は灰茶色で平行叩き、内面は黄茶色で当て具痕が残る。還元不良。

片口鉢 (21) 口縁部から体部にかけての片で、残存器高5.5cmを測る。調整はヨコナデ、内外面明灰色を呈し、還元良好である。東播系か。

## 土師器

坏 (22~24) 22は口縁部片で胎土は精選されており、茶色を呈する。焼成不良。23は底部片で底径6.0cmを測る。胎土は精選されているが、焼成不良で淡黄白色を呈する。24は底部片で底径6.10cmを測る。胎土は精選されているが、焼成不良で明黄茶色を呈する。

椀 (25) 底部片で高台径7.1cmを測る。底部を工具により削り、高台状に形成する。削り出し高台椀。黄茶褐色を呈し、焼成不良。

## 瓦器

椀 (26) 体部片で外面に坏底部からの押し出し時の稜が残る。外面稜下半が工具によるナデ、稜上半が横方向のミガキ、内面はナデが残る。胎土は精選されており、外面は明灰白色、内面は明黄灰色を呈する。やや焼成不良。

## 磁器

白磁皿 (27) 口径10.3cmを測る。内面と体部外面半分程度に釉を施す。露体部には回転ヘラ削り痕が残る。光沢度、透明度がない。

白磁碗 (28・29) 28は体部片で見込みに沈線を施す。29は口縁部小片で内外面に貫入が見られる。

3SF35 (3SD25) (Fig. 12、Pla. 28)

## 須恵器

坏 (30) 底部片で高台径7.4cmを測る。やや内側に直立する高台を貼り付け、底部器壁が厚い。内外面ともに明灰白色を呈し、焼成・還元は不良。

甕 (31~33) 31は胴部片で外面は暗赤褐色で工具によるナデ、内面は淡赤褐色で工具によるナデ。焼成・還元良好。32は胴部片で外面は茶褐色で格子目叩き、内面は明黄赤色で平行叩き、同心円の当て具痕が残る。焼成・還元良好。33は口縁部片で口径18.4cm、調整はヨコナデ。外面は暗茶褐色、内面は明灰茶色を呈する。焼成・還元良好である。

壺 (34) 底部片で底径16.6cmを測る。残存外面上半を斜方向に平行叩き、下半を横方向に工具によるナデ(若しくは削り)底部外面を同心円状の叩き後、不定方向のナデを施す。内面は指頭による成形後、不定方向にナデを施す。色調は外面は淡灰白色、内面は暗灰色を呈する。

#### 土師器

皿 (35) 底部片で、器壁が厚い。焼成不良で調整不明。外面は黄茶色、内面は茶褐色を呈する。

大椀 (36) 高台と底部の接合部で割れる片で、高台径11.4cmを測る。焼成不良で調整は不明。内外面ともに淡黄茶色を呈する。

高坏×蓋 (37) 端部小片で高坏と蓋の可能性ある。器壁が3mm程度で薄い。焼成不良で調整不明。

3SX20 (Fig. 12)

#### 須恵器

甕 (38~40) 38は口縁部片で口径21.5cmを測る。端部は断面三角形を呈し、調整はヨコナデ。外面は暗灰色、内面は明灰白色を呈し、焼成・還元良好である。39は口縁部小片で調整はヨコナデ、外面は淡茶褐色、内面は明黄茶色で焼成・還元・良好である。40は胴部片で外面は暗灰茶色で格子目叩き後、ナデを施す。内面は暗赤灰色で当て具痕が残る。焼成・還元良好である。

3SX15 (Fig. 12)

#### 須恵器

甕 (41) 胴部片で外面は灰色で格子目叩き後ナデ。内面は明灰茶色で当て具痕が残る。焼成・還元良好。

3SX10 (Fig. 12)

#### 須恵器

坏 (42) 底部片で高台径9.5cmを測る。断面四角形の高台が貼り付き、外面は暗灰色、内面は明灰色を呈する。焼成・還元良好。

蓋 (43) つまみ部片で擬宝珠の天井部を凹ましている。色調は暗灰色を呈し、焼成・還元良好である。

#### 土師器

椀 (44) 底部片で高台径7.1cmを測る。底部を削り出して高台部を形成している。外面は明黄茶色、内面は淡茶色を呈する。焼成不良。

### (3) 小結

調査地一帯については市中心部の市街化している地域であり、平成元年以降、現在の市教委での調査体制が確立されるまでに、種々の開発事業により市中心部での遺跡の保護が難しい状況であった。しかし、今回の確認・試掘調査では遺跡が十分に保護されている事が確認され、その保護（記録保存）として発掘調査を行い、地権者をはじめとして住民への埋蔵文化財に対する理解を得る機会となった。

今次調査から検出された遺構は溝1条、土壇1基、道路遺構（推定西海道駅路）である。溝については埋土状況や平面形態から、人工的な掘り込みによる水路として考えられ、時期については出土遺物から埋没時期を3SD05を中世、3SD03・04を近世と推定したい。道路遺構（3SF35）の詳細については「IV. まとめ」で述べる。ここでは3SX05について周辺の調査状況を踏まえて述べる。

3SX05との関連を指摘できる周辺調査の遺構では山ノ井川口遺跡 SD026、徳久中牟田遺跡 SD10、山ノ井南野遺跡2SD10が存在する。各々の遺構の説明は各報告書に記述があるので参照されたい。3SD05との遺構規模等については下記の表のとおり、周辺遺跡の溝との類似性が挙げられる。位置関係、規模等から検討すると、山ノ井川口 SD026と徳久中牟田 SD10の一連の溝として推定したい。筑後市内の遺跡からは中近世の溝（水路等）が多く検出される傾向にある。このことから、市内一帯が水田耕作による灌漑用の水路の必要性が高い地域としてその役割を果たしていた様子がうかがい知ることができる。

今後は、これら検出された溝についての掘削痕跡や流路方向、水田痕跡等を詳細に検証していく事が市内での古代・中世の条里復元や地域における農耕の基礎資料になると考えられる。

遺跡名	遺構番号	幅(m)	壙底レベル(m)	方向	断面形状	時期	報告書
山ノ井川口遺跡	SD026	3.5	13.5	北東-南西	U字	中世	筑後市第45集
徳久中牟田遺跡	SD10	2.5~3.85	13.4	北東-南西	逆台形	13C前半	筑後市第19集
山ノ井南野第2次	2SD10	1.0~1.9	14.3	南北	逆台形	中世	筑後市第64集
山ノ井南野第3次	3SD05	3.5	13.0	南北	逆台形	中世	

Tab. 2 山ノ井南野遺跡周辺調査での溝検出一覧表

## 山ノ井南野遺跡第4次調査

### (1) はじめに

調査地は筑後市大字山ノ井字南野に所在する。平成16年度に当該地についての文化財の所在について照会があり、当該地が文化財包蔵地である旨を伝え、開発事業者である石橋良彦氏から平成16年2月19日に試掘・確認調査依頼が提出された。現地での確認調査を行ったところ、西海道跡を検出したため協議を行い、発掘調査が必要である旨を伝えた。当該地に建築される建物は専用住宅兼店舗であるため調査費用に関しては、面積案分により専用住宅部分について国庫補助金、県費補助金、市文化財保護部局で負担し、店舗等については原因者である石橋良彦氏に負担いただいた。調査面積は約330㎡、排土置き場の関係上、反転調査を行い、調査期間は平成16年7月12日～9月30日迄である。発掘調査は上村英士が担当した。

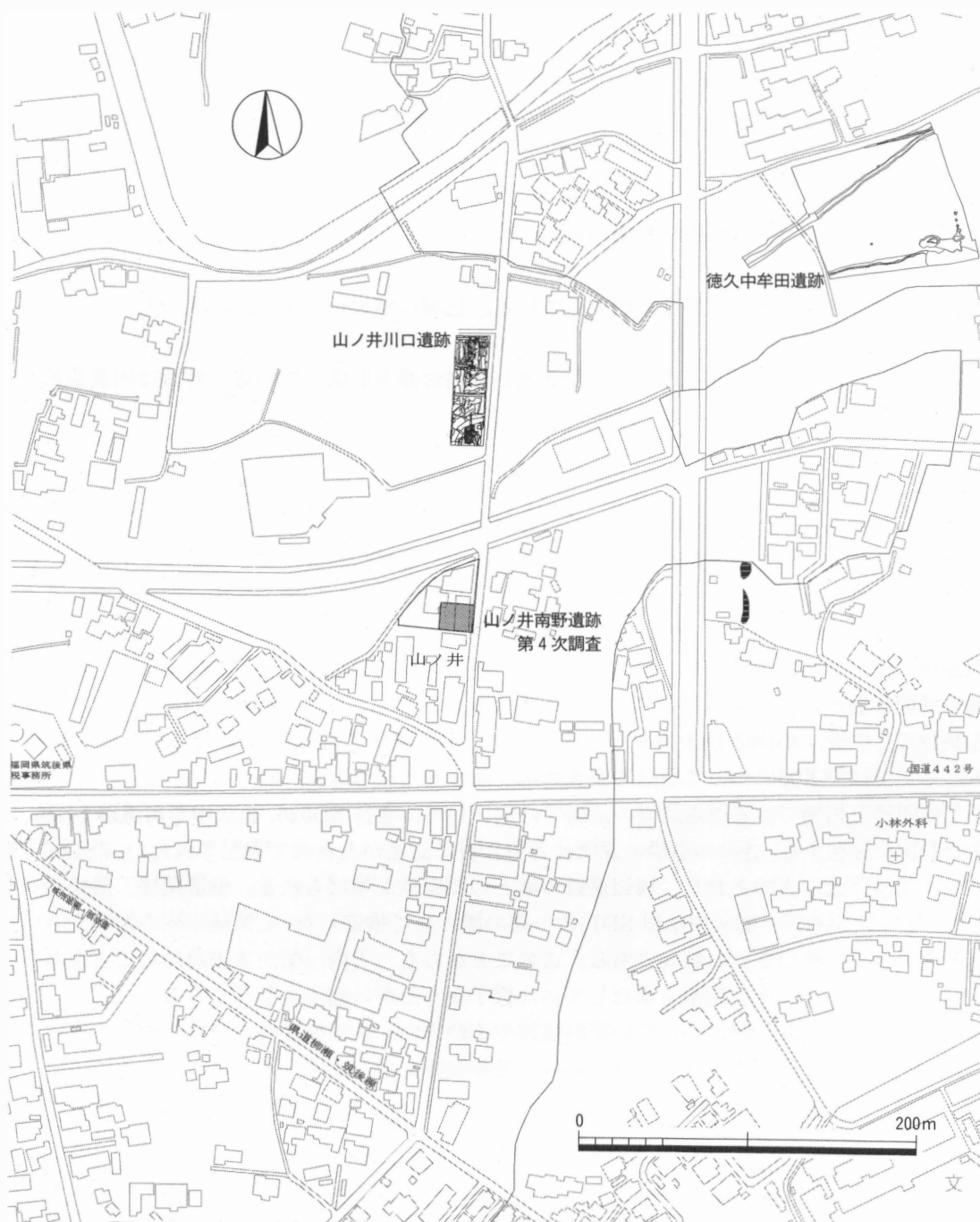


Fig. 13 調査区地点位置図 (1/4000)

## (2) 検出遺構

### 基本土層

基本土層については、第3次調査とほぼ同様である。遺構面までの掘り下げは重機で行っている。第3次調査ではマンガンを含む淡黄褐色土で遺構面を検出したが、今次調査ではマンガンを含まない淡黄褐色土であり、下層の淡黄色粘質土に多量に含まれている。遺構面である道路遺構側溝については、埋土の沈み込みによると考えられる凹みのため、遺構面直上の田床土（包含層か）が残存しており、若干遺物を出土している。

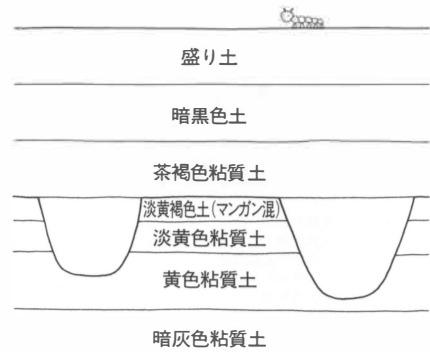


Fig. 14 基本土層模式図

### 道路遺構

#### 4SF35 (Pla. 14~25)

調査区を南北に走る道路遺構である。第3次調査の南延長部分にあたる。遺構残存は第3次調査とほぼ同様であった。検出された道路遺構に伴う各種パーツ（遺構）は東西両側溝、溝状遺構、带状硬化面、連続ピット状遺構（波板状の連続土壌の可能性有）、落ち込みである。以下に各パーツ（遺構）について記述する。なお、遺構番号は第3次調査の「3SF35」と同様に「4SF35」を表記し一連の遺構とする。

### 側溝

#### 東側溝

##### 4SD10 (Fig. 15、Pla. 15・16)

調査区東端で検出し、南側では側溝東立ち上がり部分が調査区外へ延びる。検出長約14.5m、幅約2.2m、最大深さ約1.09mを測る。第3次調査で確認しているテラス状（掘り直し、浚渫に伴うものか）は部分的に存在しており、一部ではテラスが存在せず急なU字状を呈する。溝底部は第3次調査ほどのピット状は呈していないが（湧水により作業が困難であったため未確認）、本来、ピット状を呈していたと考えられる。壙底レベルについてはほぼ一定である。土層観察により最低2回以上の掘り直しを推定する。遺物は須恵器甕、壺、土師器坏、小皿、蓋、皿、椀、甕、黒色土器B・A類椀、白磁碗、青磁碗（龍泉窯系・同安窯系）、片口鉢（東播系）、石製品、滓を出土している。

#### 西側溝

##### 4SD01 (Fig. 15・16、Pla. 17~19)

調査区中央で検出し、一部攪乱を受ける。検出長約14.7m、幅約1.6m、最大深さ約0.64mを測る。溝内の西側にテラス（掘り直し、浚渫に伴うものか）を検出している。壙底はほぼフラットであり、断面は逆台形を呈する。土層観察により最低2回以上の掘り直しを推定する。また、4SD03を掘り直し時に切り、（西側溝土層図第3層～第5層が4SD03を切る）4SX04が側溝最終埋土上を覆う。遺物は須恵器蓋、皿、甕、壺、土師器坏、皿、椀、鉢、甕、黒色土器A類椀を出土している。

### 路面部痕跡

#### 落ち込み

##### 4SX04 (Fig. 20、Pla. 19)

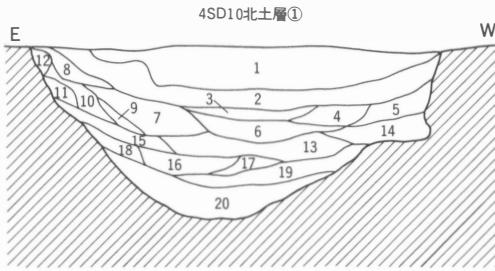
調査区北端の西側溝東で検出した落ち込みで、範囲が一部側溝埋土上に達するため、側溝埋没後によると考えられる。東側溝の埋没時期の問題を含むため、道路遺構痕跡としている。検出長約2.9m、幅約0.9m、深さ約0.02mを測る。埋土は小石混じりの茶黄色土で比較的柔らかい土である。遺物は出土していない。

##### 4SX08 (Fig. 20)

調査区中央で検出した落ち込みで、西側溝に切られる。検出幅約1.8m程の不定形な平面であり、深さ約

4SF35 (4SD10)

14.40m



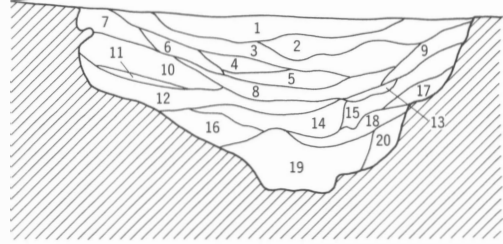
- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1. 暗黒色土         | 11. 暗黄茶色土 (砂質混)      |
| 2. 淡黒灰色土        | 12. 黄茶色土 (砂質混)       |
| 3. 淡黒灰色土粘質土     | 13. 茶灰色砂質土           |
| 4. 淡黒灰色粘質土      | 14. 暗灰色砂質土           |
| 5. 淡茶色粘質土       | 15. 淡緑灰色砂質土          |
| 6. 淡灰色土 (砂質混)   | 16. 淡灰色土 (砂・粘質土混)    |
| 7. 明茶黄色粘質土      | 17. 明灰色土             |
| 8. 淡黒茶色土        | 18. 暗灰色土             |
| 9. 暗茶色土         | 19. 暗黒灰色粘質土 (黄色粘混)   |
| 10. 淡黄茶色土 (砂質混) | 20. 淡黒灰色粘質土 (黄色粘多く混) |

W

E

14.20m

4SD10北土層②



- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 淡黒色土         | 10. 暗黒色土 (若干砂質混)      |
| 2. 暗黒色土         | 11. 淡灰色粘質土            |
| 3. 淡茶黒色土        | 12. 茶黄色粘質土            |
| 4. 茶黒色土         | 13. 灰茶色粘質土            |
| 5. 淡黒茶色粘質土      | 14. 暗灰色砂質土 (黄色小ブロック混) |
| 6. 茶黒色土 (若干砂質混) | 15. 茶灰色粘質土            |
| 7. 暗黒茶色土        | 16. 黄茶色粘質土            |
| 8. 淡茶褐色土        | 17. 黄茶色粘質土 (黒色小ブロック混) |
| 9. 茶褐色粘質土       | 18. 暗黒色粘質土            |
|                 | 19. 灰土 (砂質・粘質混)       |

4SF35 (4SD01)

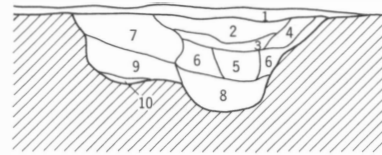
14.40m



- |               |                     |
|---------------|---------------------|
| 1. 暗灰色土 (耕作土) | 7. 暗茶色土 (黄色粘混)      |
| 2. 明茶黄色土 (硬化) | 8. 茶褐色粘質土           |
| 3. 暗黒色土       | 9. 暗褐色粘質土           |
| 4. 淡黒色土       | 10. 暗茶色粘質土 (黄色粘混)   |
| 5. 暗茶色土       | 11. 茶黄色土 (マンガング粒混)  |
| 6. 淡茶色粘質土     | 12. 淡黒色土 (黄色小ブロック混) |

14.40m

4SD01南土層②



- |              |          |
|--------------|----------|
| 1. 灰黒色土 (床土) | 6. 茶褐色土  |
| 2. 暗黒色土      | 7. 淡褐色土  |
| 3. 淡黒色土      | 8. 暗褐色土  |
| 4. 茶黒色土      | 9. 茶灰色土  |
| 5. 黒茶色土      | 10. 黄茶色土 |



Fig. 15 4SF35 (4SD10、01) 土層図 (1/40)

0.02mを測る。埋土は4SX04と同様に茶黄色土で小石や土師器細片が含まれる。検出時は硬化を確認していない。埋土を除去後、小ピットや土塊状の遺構を検出している。

带状硬化面

4SX05 (Fig. 17, Pla. 19~21)

調査区北側では带状に凹んだ状態で検出し、南側では凸状に痕跡が残る。検出長約13.5m、幅約0.3m~0.53m、凹部は深さ約0.03mを測る。埋土は砂粒を殆ど含まない暗茶色土である。硬化は凹部では底部、側面部、凸部は全面で確認している。埋土からの遺物は出土していない。

溝

4SD03 (Fig. 17)

西側溝に平行して検出し、調査区北側では攪乱に、南側では西側溝に切られる。検出長約9.8m、幅約0.36m、最大深さ約0.13mを測る。溝底部は小ピットが連続する形状を呈し、埋土は黄色小ブロックを多く含む淡黒色土である。溝断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。

4SD11 (Fig. 18)

調査区中央から東側溝に平行して検出し、調査区外へ延びる。検出長約3.0m、幅約0.15m~0.3mを測り、溝底部は連結したピット状を呈する。最大深さ約0.22mを測る。埋土は4SD03に近似した黄色粒を含む淡黒色土である。遺物は出土していない。

4SD17 (Fig. 17, Pla. 20)

調査区西南端で検出した溝状の遺構で、南側を攪乱され一部しか残存しない。検出長約1.1m、最大深さ約0.1mを測る。溝内には小ピットがある。埋土や溝内の状況は4SD03と同様である。遺物は出土していない。

4SF35 (4SD01)

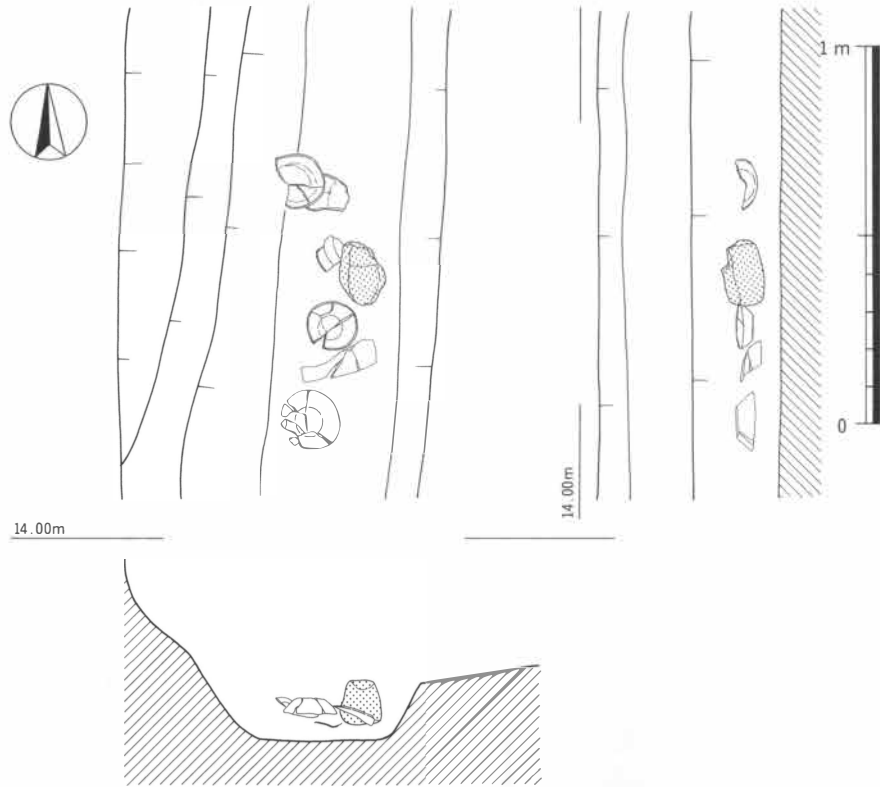


Fig. 16 4SF35 (4SD01) 遺物出土状況 (1/20)

#### 硬化面

4SX06 (Fig. 20、Pla. 20・21)

調査区南で検出し、帯状硬化面の凸部の両側に展開する。西側溝東立ち上がりから最大約1.8mの範囲にあたる。硬化は帯状硬化に比べやや柔らかい感を受ける。硬化土は約0.01m～0.02mの厚さであり、遺物は含まない。

#### 連続ピット群

4SX09 (Fig. 17、Pla. 22)

調査区中央で西側溝に平行する形で検出した小ピット群である。平面形状は円形や楕円形、長方形を呈する。埋土は黄色粒を含む暗黒色土であり、4SX03、4SD17、第3次調査の3SX06と同様である。一部は検出面で埋土が硬化している。合計で22個確認しており、遺物は出土していない。

#### ピット群

4SX13 (Fig. 17、Pla. 23・24)

4SX09の南隣で検出した計4個のピット群である(a～d)。平面形状は不定形で円形若しくは楕円形を呈する。埋土はピット a～c は小石や土器細片を含む茶色系で硬化はない。ピット d は黒色系の埋土であり硬化はない。ピット a は西側溝埋土(4SD01)に切られており、壙底に小石が詰められた状況である。遺物はピット a から須恵器小片を出土している。

4SX14 (Fig. 17)

4SX13北東隣で検出した計4個のピット群である(a～d)。平面形状はdのみ円形で他は楕円形を呈する。埋土はピット a～c は小石や土器細片を含む茶色系で硬化はない。ピット d は黒色系の埋土であり硬化はない。遺物は出土していない。

4SX16 (Fig. 17、Pla. 24・25)

4SX13南で検出した計3個のピット群である(a～c)。aとbには切り合い関係があり、aが切る。a・cが平面が円形で埋土が茶色系、bが不定形で埋土は黒色系である。何れも硬化はなく、cのみ埋土に小石が含まれる。遺物は出土していない。

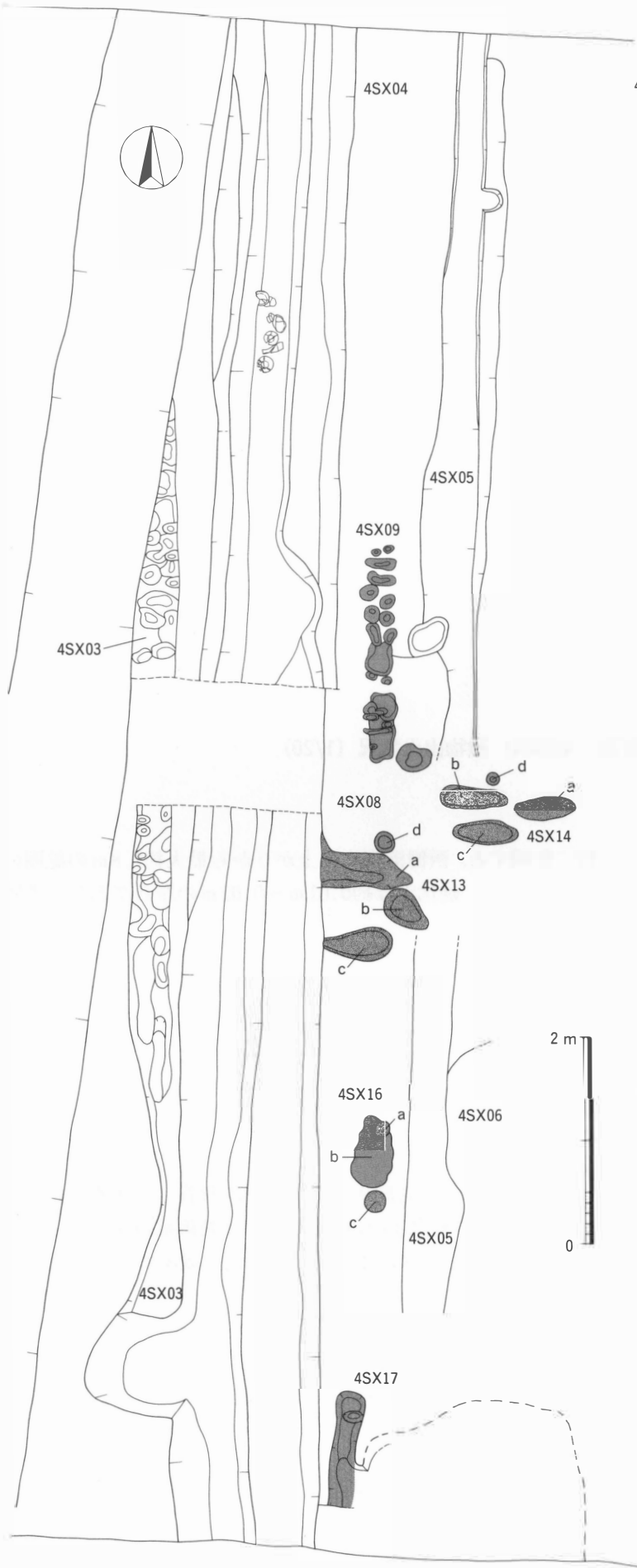


Fig. 17 4SF35関連遺構図 (1/60)

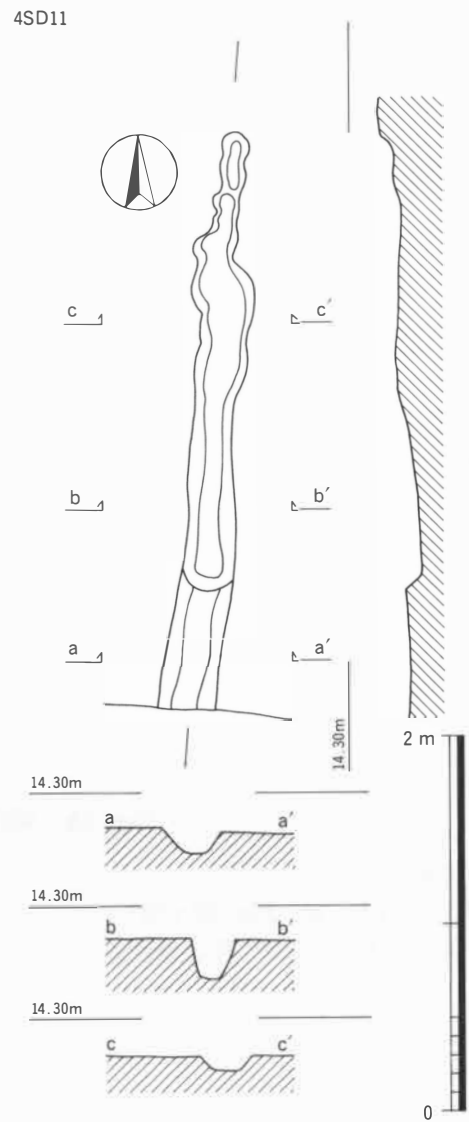


Fig. 18 4SD11実測図 (1/40)

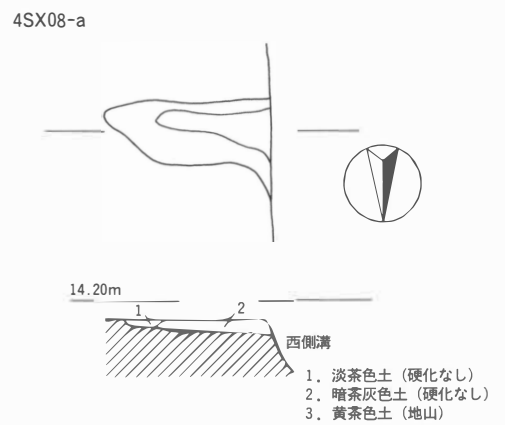


Fig. 19 4SX13-a 実測図 (1/40)



Fig. 20 山ノ井南野遺跡第4次調査 遺構略測図 (1/150)

旧→新				旧→新			
S-番号	遺構番号	備考	地区	S-番号	遺構番号	備考	地区
1	4SD01	道路遺構西側溝 (4SF35)	B5	10	4SD10	道路遺構東側溝	B1
2	4SD01	沈み込み田床土	D5	11	4SX11	溝	B2
3	4SD03	溝3SD05の上層部分 3→1b	C5	12		欠番	
4	4SX04	落ち込み 5→4	E4	13	4SX13	ピット群	C4
5	4SD05	帯状硬化面	B4	14	4SX14	ピット群	C4
6	4SX06	硬化面	B4	15		欠番	
7		4SD10沈み込み田床土	B1	16	4SX16	ピット群	C4
8	4SX08	落ち込み 8→1b	C4	17	4SD17	溝	B4
9	4SX9	連続ピット群	D4				

Tab. 3 山ノ井南野遺跡第4次調査 遺構番号台帳



### (3) 出土遺物

4SF35 (4SD10黒色土、北①土層図1層) (Fig. 21、Pla. 28)

須恵器

壺 (45、46) 45は頸部の小片である。外面は暗灰色、内面は明灰色で調整はヨコナデ、焼成・還元良好である。46は頸部片で外面にカキ目を施し暗灰色を呈し、内面はヨコナデで明灰色を呈する。焼成・還元良好である。

土師器

小皿 (47) 口径9.3cm、器高0.9cm、底径7.9cmを測る。底部回転糸切り。明黄白色を呈し、焼成不良。

黒色土器 (48) B 類の椀口縁部片で、残存器高1.8cmを測る。内外面ヨコナデ。

磁器

青磁碗 (49、50) 49は口縁部片で内面に文様を施す。口径15.7cm、釉調は明緑茶色、光沢度・透明度は低い。龍泉窯系。50は体部から口縁部片で体部外面に鎬連弁を施す。釉調は明緑灰色、光沢度・透明度は低い。龍泉窯系。

陶器

皿 (51) 皿と考えられる口縁部小片で、口唇部から内面にかけて明橙色の釉がかかる。

4SF35 (4SD10①、北①土層図1～2層) (Fig. 23、Pla. 28)

須恵器

鉢 (52) 片口鉢の口縁部片で内面は不定方向のナデ、外面はヨコナデ。色調は暗灰色で焼成・還元良好。東播系。

土師器

皿 (53) 器高1.10cmを測り、内外面ヨコナデ、底部処理は回転糸切り、色調は赤褐色を呈する。

石製品

播り石 (54) 安山岩製で、一面に使用痕が残る。83.2g。

砥石 (55) 安山岩製の砥石で三面に使用痕が残る。

金

滓 (56) 長さ4.15cm、幅1.70cm、厚さ1.50cm、5.7gを測る。暗黒色を呈する。

4SF35 (4SD10灰色土、北①土層図6層) (Fig. 21)

土師器

椀 (57) 口縁部片で胎土がよく精選されており、外面は明黄灰色、内面は明黄色～暗灰色である。

4SF35 (4SD10淡灰黒色土、北①土層図3～12層) (Fig. 21、Pla. 28)

土師器

蓋 (58) ツマミ径2.60cmを測る。接合面で剥離している。明黄白色で焼成不良。

甕 (59) 口縁部片で内外面ともに明黄茶色を呈する。

椀 (60) 口径18.0cmを測り、口縁部付近で若干内湾する。内外面ともに明黄白色。

青磁

碗 (61) 底部片で見込みに櫛目の文様を施す。高台部は露胎。同安窯系。

4SF35 (4SD10灰色粘、北①土層図13～15層) (Fig. 21、Pla. 28)

須恵器

壺 (62) 口径16.4cmを測る。口縁部を屈曲させ二重口縁に成形する。調整はヨコナデ。外面は暗青灰色、内面は明灰色、焼成・還元良好。

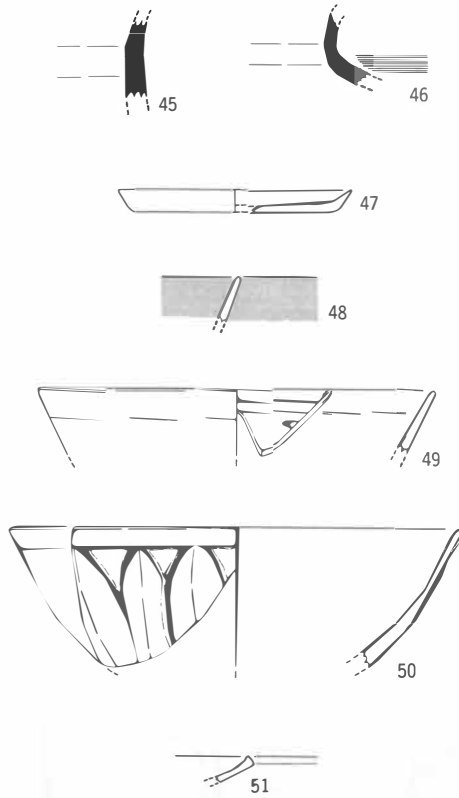
土師器

椀×坏 (63) 口縁部から体部にかけての片で内湾しながら口縁部で直に立つ。淡黄茶色を呈する。

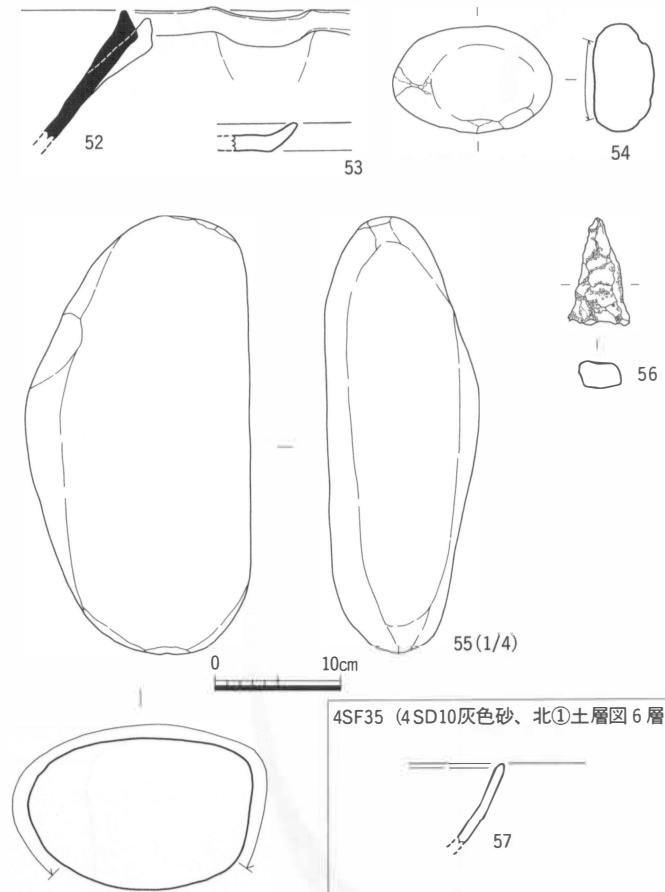
坏 (64) 底部回転ヘラ切りで器肉が薄い。胎土はよく精選されている。

甕 (65) 口縁部片で口唇部内面に横方向のミガキを施し、黒色化している。外面は刷毛目。

4SF35 (4SD10黒色土、北①土層図1層)



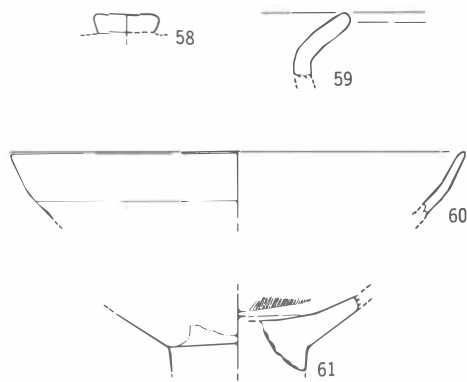
4SF35 (4SD10①、北①土層図1~2層)



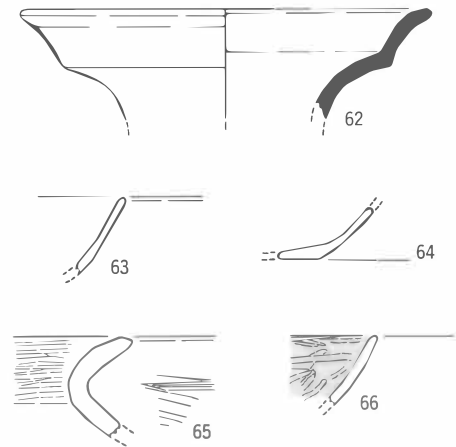
4SF35 (4SD10灰色砂、北①土層図6層)



4SF35 (4SD10淡灰黒色土、北①土層図3~12層)



4SF35 (4SD10灰色粘、北①土層図13~15層)



4SF35 (4SD10暗灰粘、北①土層16~20層)

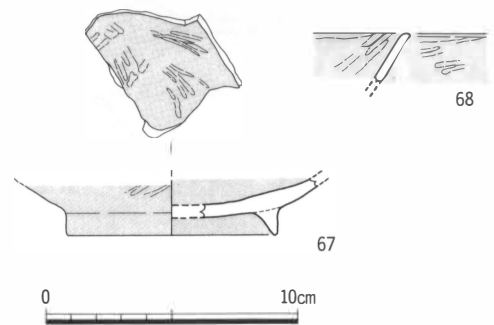
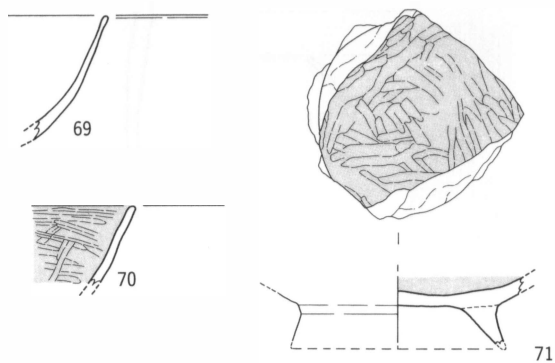
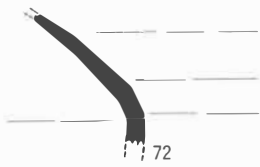


Fig. 21 山ノ井南野遺跡第4次調査 出土遺物実測図 (1/3、55のみ1/4)

4SF35 (4SD10③、北②土層図19層)



4SF35 (4SD10)



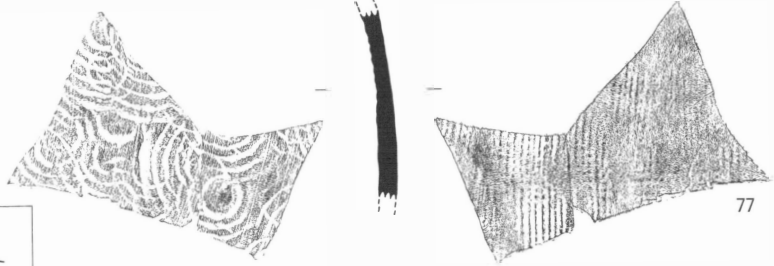
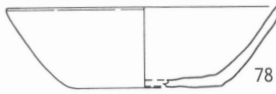
4SF35 (S-2)



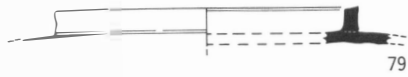
4SF35 (4SD01-a、南①土層図3層)



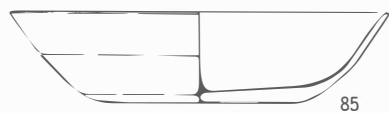
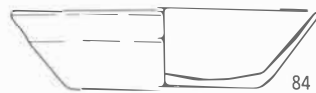
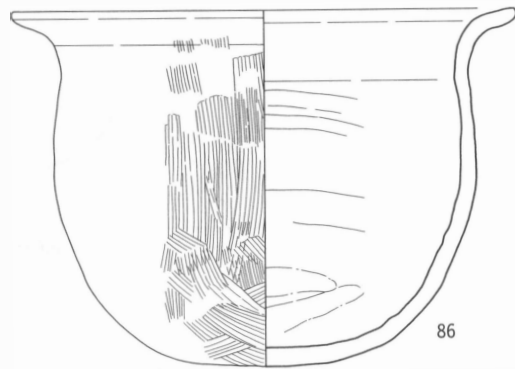
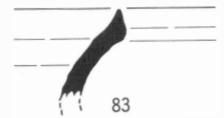
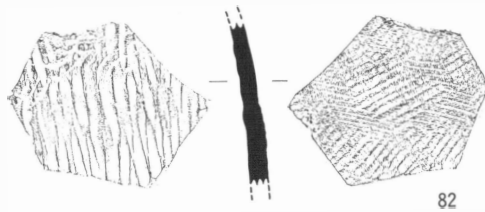
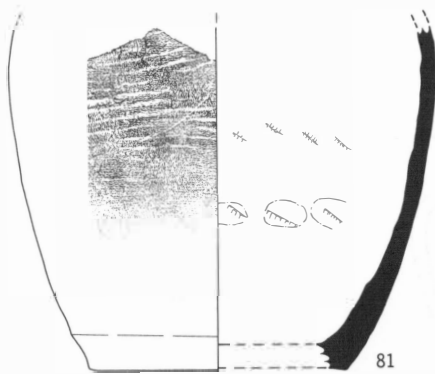
4SF35 (4SD01③、南①土層図4層)



4SF35 (4SD01-b、南①土層図5層)



4SF35 (4SD01④、南②土層図8層)



4SF35 (4SD01壙底)

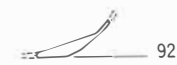
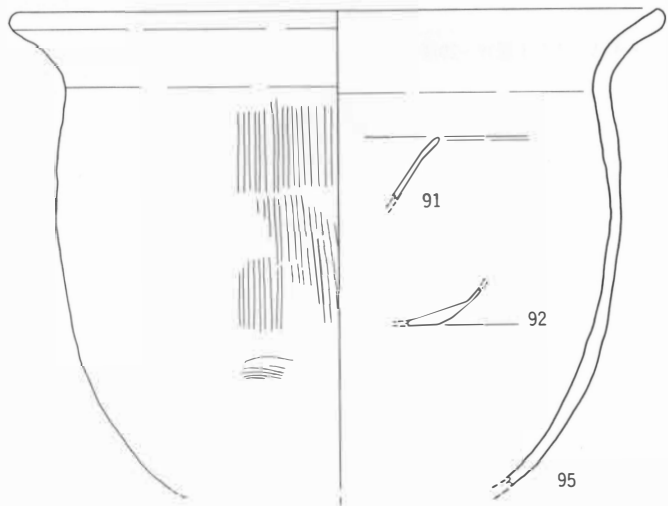
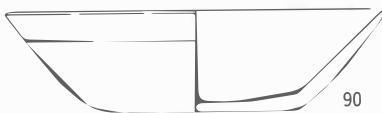
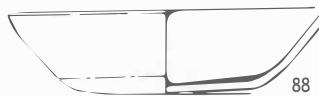


Fig. 22 山ノ井南野遺跡第4次調査 出土遺物実測図 (1/3)

黒色土器

椀 (66~68) 66はA類の口縁部片で内面にミガキを施す。外面は黒褐色~赤茶色を呈する。67はB類で底径8.40cmを測る。高台は断面三角形を呈し、内底に不定方向にミガキを施す。体部外面に工具痕とミガキを施す。68は口縁部片で67と同一遺物の可能性がある。内面は斜方向、外面は横方向にミガキを施す。

4SF35 (4SD10暗灰粘、北①土層図16~20層) (Fig. 21、Pla. 28)

土師器

椀 (69) 体部から内湾し口縁付近で直に立ち上がる。内面に一部ミガキを施し、口縁端部は黒色化する。

黒色土器

椀 (70、71) 70はA類の口縁部片で内面口縁部を横方向、内面体部を不定方向にミガキを施す。71は底部片で高台はやや高い。内底にミガキを施し、外面は明黄赤色を呈する。

4SF35 (4SD10③、北②土層図19層) (Fig. 22)

須恵器

壺 (72) 肩部片で内外面ともにヨコナデ。外面は暗黄灰色、内面は明黄灰色を呈し、焼成・還元良好。

4SF35 (SD10) (Fig. 22、Pla. 28)

白磁

碗 (73) 内面に文様を施し、明緑灰色の釉を施す。内外面に貫入が見られる。光沢度・透明度高い。

4SF35 (S-2) (Fig. 22)

土師器

鉢 (74) 片口鉢の口縁部片で内外面ともに明黄白色を呈する。胎土に角閃石を含む。

小皿 (75) 底部糸切りで内外面ともに明赤茶色を呈する。焼成不良。

4SF35 (4SD01-a、南①土層図3層) (Fig. 22)

黒色土器

椀 (76) A類の口縁部片で内面に横方向にミガキを施す。胎土は精選されている。

4SF35 (4SD01③、南①土層図4層) (Fig. 22、Pla. 28)

須恵器

甕 (77) 体部片で、外面は格子目、平行叩きに緑茶色の自然釉がかかり、内面は同心円当て具痕が残る。焼成・還元良好。

土師器

坏 (78) 口径11.0cm、器高3.25cm、底径6.1cmを測る。底部処理は摩耗により不明。明赤茶色を呈する。

4SF35 (4SD01-b、南①土層図5層) (Fig. 22)

須恵器

蓋 (79) 輪状ツマミが付く蓋で天井部外面は回転へら削り痕が残る。内外面ともに明灰色、焼成・還元良好。

4SF35 (4SD01④、南②土層図8層) (Fig. 22、Pla. 28・29)

須恵器

皿 (80) 口径12.1cm、器高1.25cm、底径9.0cmを測る。底部は回転へら切り後、ナデ。調整はヨコナデ。内外面ともに明灰色。

壺 (81) 胴部下半の片で、底径10.2cmを測る。残存体部外面上半は平行叩き、下半は回転へら削り、内面は横方向の工具痕、指頭痕が残る。底部はナデ。外面は淡赤茶色、内面は淡赤灰色を呈し、焼成良好で還元はやや不良である。

甕 (82、83) 82は胴部片で外面は格子目叩き後、ナデ、内面は同心円痕の後、平行の当て具痕が残る。明灰色で焼成・還元良好。83は口縁部片で調整はヨコナデ、外面は暗灰褐色、内面は明灰茶色、焼成・還元良好。

土師器

坏 (84、85) 84は口径12.2cm、器高3.2cm、底径7.7cmを測る。底部は回転へら切り、体部は直線的に立ち

上がる。内面に煤が付着する。色調は黄茶色。85は口径15.0cm、器高3.6cm、底径8.2cmを測る。底部は回転ヘラ切り、体部中程まで内湾する立ち上がりで、色調は赤白色。

甕 (86) 小型の甕でほぼ完形である。口径20.0cm、器高14.2cm、底径9.3cmを測り、口縁部ヨコナデ、体部外面は縦方向の刷毛目、内面は工具による横方向のナデ、内底には指頭痕が残り、煤の付着が見られる。

鉢 (87) 口径20.9cmを測り、口縁部ヨコナデ、外面は工具痕、刷毛目が残る。内面は横方向の工具痕が残り、煤が付着する。

4SF35 (4SD01、壙底) (Fig. 22、Pla. 29)

土師器

坏 (88~92) 88は口径12.6cm、器高3.35cm、底径7.55cmを測る。底部は回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り、体部は直線的に立ち上がる。調整はヨコナデ、体部下半に煤が付着する。ほぼ完形。89は口径14.2cm、器高3.1cm、底径7.65cmを測る。底部は回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り、体部は直線的に立ち上がる。調整はヨコナデ。90は口径15.1cm、器高4.1cm、底径7.95cmを測る。底部は回転ヘラ切り後、ナデ、調整はヨコナデ。ほぼ完形。91、92は接合しないが同一個体の可能性があり、薄いつくりで、外面は丹塗り。

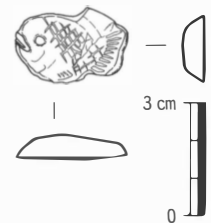
皿 (93) 口径15.5cm、器高2.2cm、底径10.6cmを測る。底部は回転ヘラ切り後、ナデ。ほぼ完形。

椀 (94) 底部削り出し高台の椀片で高台径8.0cmを測る。内底は不定方向のナデ、外底は高台を削り出しナデで調整する。

甕 (95) 口径26.0cmを測り、口縁部外面はヨコナデ、内面は工具によるナデ、体部外面は刷毛目、内面は斜方向のナデ。胎土に角閃石を含む。

表土 (Fig. 23、Pla. 29)

土製品 (96) 鯛?を模した土製品である。裏面は工具によるナデを施す。 Fig. 23 表土遺物実測図 (1/2)



#### (4) 小結

今次調査からも道路遺構(推定西海道駅路)が検出されている。他の遺構に関しては調査区が僅少なため検出されていない。「まとめ」で後述するが、今回の調査区では、東隣にある山ノ井南野遺跡第2次調査で検出された3SD01が当調査区の道路遺構東側溝に繋がるのが焦点であった。残念ながら東側溝が現況道路下に若干延長しているため、確認が行えなかった。しかし、側溝の一部埋土と出土遺物から推定であるが連結していたであろうと考えられる。ただし、互いの遺構検出面の遺構が切り込む地山層が違う事(2次調査と4次調査では4m道路を挟んで東西に位置するが検出標高が約30cm以上異なる。)等の問題点は指摘しておく。また、これらの問題については、2次調査の報告書(筑後市文化財報告書第64集)を参照されたい。

## IV. まとめ

今回の山ノ井南野第3次調査、第4次調査から検出された道路遺構（推定西海道駅路）3SF35、4SF35（以下、SF35）について市内遺跡から検出された道路遺構含めて状況をまとめておく。

### （Ⅰ）市内で検出された道路遺構

現在までに、市内では6遺跡、9件の道路遺構（西海道駅路）調査が行われており、その中には丘陵上と低地上での事例が報告されている。<sup>註1</sup> 今回の調査は低地上に敷設された道路遺構であるが、ここに他遺跡の痕跡等について概略を挙げておく。尚、痕跡等の分類については山村1993、小鹿野2003を使用し、用語については「」で小鹿野2003による用語を使用している。

・鶴田中市ノ塚遺跡第1次、3次、4次調査<sup>註4</sup>

市南部の標高約12m～12.5m程に位置し、3度の調査（第1～3次）から両側溝対応パターンとして3パターンの道路変遷を報告している。道路変遷では路面幅は縮小傾向であり、13c前半までには廃絶している。付随する道路遺構関連の遺構（以下、パーツ）については帯状硬化面、硬化面が検出されている。帯状硬化面については両側溝の「路肩部」と呼ばれる位置に、幅約0.3m程で側溝に沿う状況で検出されている（山村B-1b類、小鹿野A-2aイ類）。硬化面については「路面部」に幅約6.1mの硬化面を検出している（山村B-1a類、小鹿野A-2aア類）。

・山ノ井川口遺跡<sup>註5</sup>

市中央部で今次調査の北約100mに位置する。標高約13.5m程に位置する。両側溝パターンとして3パターンの道路変遷を報告している。道路変遷では路面幅は縮小傾向である。付随するパーツについては刺突状痕跡（小鹿野D-1b類）、波板状凹凸痕跡（小鹿野C-2類）、溝状痕跡である。

・羽犬塚山ノ前遺跡<sup>註6</sup>

市中央の丘陵端部で標高約19m程に位置する。道路全体（側溝、路面）を丘陵部分のカット工法（山村Bタイプ）による施工である。両側溝対応パターンとして10パターンの道路変遷を報告している。道路変遷では路面幅は一部拡幅傾向であり、拡幅側溝の埋没時期を9c前半以降とする。付随するパーツについては帯状硬化面（山村B-1b類、小鹿野A-2aイ類）、帯状硬化覆土、波板状の連続土壌（小鹿野C類、D-1類）、硬化面（山村B-1a類、小鹿野A-2aア類）である。

・鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査<sup>註7</sup> 鶴田牛ヶ池遺跡第5次調査<sup>註8</sup>

市南部の低地上である。部分調査のみの確認調査のため詳細は不明である。検出した両側溝が幅約5m程度あるため幾度かの掘り直しや配置換え等で幅広く検出したものと考えられる。

### （Ⅱ）山ノ井南野遺跡第3・4次調査で検出された道路遺構

#### 1. 道路遺構の規模

側溝延長は最大で約37.8mを検出している。側溝の芯々間は約11.0m、路面部幅約9.0mである。しかし、東側溝に関しては埋没時期が西側溝より出土遺物から約400年程違いがある事は指摘しておく。したがって、道路（官道として）の使用時期から東側溝の位置は変更していないと仮定しての数値である。

#### 2. 道路遺構痕跡

検出された道路遺構に伴う各種痕跡は

- (a) 側溝
- (b) 溝（一部側溝の可能性あり）
- (c) 帯状硬化面
- (d) 硬化面
- (e) ピット群1（波板状連続土壌の可能性あり）
- (f) ピット群2（牛馬痕跡と考えられ、近代、現代の可能性あり）

である。以下に各種痕跡と埋没時期について述べる。

(a) 側溝

東側溝

検出延長約37.8m、幅約2.2~3.0m、深さ約1.1m。溝内は2回以上の堀直しを推定し、壙底はピット状に並ぶ。遺物の時期については龍泉窯系青磁碗や東播系鉢など中世前半の資料が出土しており、埋没時期を13世紀代と考える。

西側溝

検出延長約31m、最大幅約1.56m、深さ約0.6m。溝内は2回以上の掘り直しを推定し、壙底はフラットである。遺物の時期については黒色土器A類碗が一番新しく、埋没期を9世紀代と考える。

(b) 溝

4SD03、4SD11、4SD17が該当し、何れも側溝に平行するか若干切り合う関係で、埋土に黄色土粒を含む黒色土である。この埋土は側溝埋土等には見られない土であり、壙底が小ピット状に凹凸が激しく、遺物が出土しない等共通点がある。4SD03については西側溝と切り合い、側溝最終埋没層の一段階前に埋没していることから、道路遺構廃絶時期に近い時期に、道路遺構との関係を指摘できる遺構である。

(c) 帯状硬化面

検出された痕跡は北側（第3次）では切れているが、これは削平を受けていると考えられ、本来、側溝に平行するか、若干蛇行し溝状に展開していたと推定する。今回の検出で幅は約0.3m~0.53mと若干差があるが、問題は検出断面が凹状（3SX15、4SX05の一部）と凸状（4SX05）になる事である。凹部分は市内検出例と同様であるが、凸部分に関しては、路面部の硬化部分との関係や、その性格について再考する必要があると考えられる資料である。

(d) 硬化面

西側溝立ち上がり部から最大で約1.8mの幅で検出される4SX06である。路面部ではこの部分のみが硬化しており、硬化面除去後の下層から遺構（波板状の連続土壌など）はない。帯状硬化面との切り合いは確認できず、併存していたと理解している。

(e) ピット群1

3SX06、07、08、4SX09、13、14、16が該当する。これらのピット群はいくつかに細分される。

A グループ（3SX06、07の一部、08、4SX09、16）

これらの遺構は溝状遺構内、若しくは小ピットが連続する遺構群で、埋土は（b）溝と同様に黄色土粒を含む黒色土である。検出面が一部硬化している状況もある。

B グループ（3SX07の一部、4SX13、14、16）

3SX07の一部については、掘り込んだ遺構という認識ではなく、被せている（整地に近い感覚）として捉えている。また、4SX13、14、16については、掘り込みに近いが、あくまで「単位」としての認識である。これらはAグループと層位の違いがあり（3SX07での切り合い関係による）、部分的ではあるが、Aグループより下層の遺構として認識している。

(f) ピット群2

本文（第3次調査）で述べているが、1. 路面部に残される路面突き固めによる刺突状痕跡、2. 旧水田に残される牛馬による耕作痕（小鹿野E類）が考えられる。1. については山ノ井川口遺跡<sup>註9</sup>で波板状の連続土壌に伴う痕跡として報告がされており、2. については熊野宮ノ後遺跡での痕跡と近似している事が挙げられ、今回検出された3SX10については、その痕跡が調査区の一部（北端）でしか検出されない事、埋土は比較的上層の旧水田床土に近い事、突き固めによる硬化がない事から旧水田の牛馬による耕作痕跡としたい。

(Ⅲ) 山ノ井南野遺跡第2・3次調査道路遺構と市内遺跡検出の道路遺構の相違点

これら各遺跡の道路遺構（西海道駅路）から各種のパーツを検出している。これらのパーツの中で今次調査検出遺構と市内調査事例との相違点を指摘しておく。

(a) 側溝

- ・今次調査では東側溝が中世まで使用されていた可能性があるため両側溝パターンが提示できない（掘り直し、浚渫については両側溝で確認している）。
- ・今次調査の東側溝である3SF30、4SF10と山ノ井川口遺跡東側溝 SF104 (SD017) については検出幅が同規模（2.25～3.3m、極端に幅広）であり、溝底部レベルがほぼ同一（標高約13.2～13.22m）であるため一連の溝として指摘したい。

(b) 溝

- ・これは側溝としての認識ではなく、<sup>註10</sup>道路遺構に関連する溝状の遺構を指す。山ノ井川口遺跡検出例と同様に今次調査でも確認している。

(c) 帯状硬化面

- ・鶴田中市ノ塚遺跡、羽犬塚山ノ前遺跡と同様に幅約0.3mで「路肩部」での検出であるが、凸状の帯状硬化は今次調査ではじめての検出である。
- ・凹状の帯状硬化面については羽犬塚山ノ前遺跡検出例のように小石、小礫等の覆土は確認されていない。

(d) 硬化面

- ・今次調査では羽犬塚山ノ前遺跡のような「路面部」での全面硬化はなく、ごく限られた部分での硬化面4SX06（西側溝4SF01「路肩部」から東へ最大約1.8m部分）しか検出していない。
- ・「路面部」痕跡としては山ノ井川口遺跡での刺突状痕跡ないしは密集した波板状連続土壌を検出していない。
- ・今次調査では連続する小ピット群を確認している。
- ・「路面部」の断面が、すり鉢状を呈する鶴田中市ノ塚遺跡、凸状になる羽犬塚山ノ前遺跡とは違い、今次調査では西側溝「路肩部」を除いて断面はフラット（削平を考慮に入れない条件で）である。

#### (Ⅳ) 山ノ井南野遺跡

今次調査からは推定西海道駅路と呼ばれる道路遺構が良好な状態で検出することができた。古代律令制により施工された道路は当市を南北に貫くことが歴史地理学や今までの発掘調査成果から確認されており、今次調査では、その道路遺構に残された施工痕跡の検出が重要となった。

様々な痕跡の中で、道路施工に関わる痕跡となった小ピット群や面的な硬化面等、今までに見られなかった痕跡を確認したことで、道路施工（作道時・使用時・補修時・廃絶時）に関わる諸問題の解決に向けて一つの資料提示となった。

現在、道路遺構調査（官道調査）ではマクロ的な視野から路線や推定ラインの問題が挙げられ、ミクロ的な視野からは各種痕跡等の分類により施工方法等の復元等の問題が提起されており、<sup>註11</sup>様々な視点から道路遺構の復元が論じられている。

当市ではマクロ的な視野である路線の問題については、発掘調査例の増加で駅路推定ラインについて歴史地理学による先学の推定が<sup>註12</sup>考古学的調査により実証されているが、市内各遺跡で異なる路面部の拡幅・縮小化の問題、推定駅家である葛野駅家所在地の認定や推定伝路との関わり、郡境や条里の問題が未だ残されている。ミクロ的な視野である道路遺構の構造論については、市内各遺跡から検出される各痕跡が遺跡毎に量的に種類の大きな差が見られ、地形環境等を考慮しない（直線を意識した）古代律令制による施工を裏付ける事となっている。しかし、地形環境等での痕跡違いは逆に道路造成方法に様々な技術が採用されている証拠であり、痕跡の抽出、分類とデータの蓄積が重要になっている。

次に時期的な問題についてであるが、今次調査で時期が明らかになる資料が出土した主な遺構は東西側溝である。また、路面部痕跡の中にも遺物を含むものがある（帯状硬化、落ち込み）。先に述べたとおり、西側溝の最終埋没を9世紀代、東側溝を13世紀代と考える。市内遺跡の事例では側溝から13世紀代までの遺物が出土した例はない（路面部を切る中世の掘立柱建物は鶴田中市ノ塚遺跡にある）。周辺調査で中世の集落等を検出していない事や、山ノ井南野第2次調査から検出された溝（3SD01・10）との関連、白磁や青



磁、東播系鉢、瓦器碗等を含むこれらの資料が道路遺構の問題と併せて、周辺の中世集落についても検討しなければならない。また、東側溝のみ後世まで残存し、路面部が道路として使用されていたかについては確証が得られないため今後の課題となる。

#### 註（参考文献）

1. 筑後市内では市北部の八女丘陵端部の台地上（標高約20m前後）の地域と、市中央から南部の低地（標高約15mから5m前後）の地域に道路遺構は展開するため、道路施工痕跡に違いがある。
2. 山村信榮「大宰府周辺の古代官道」『九州考古学』第68号 九州考古学会 1993
3. 小鹿野亮「古代道における路体施工の複合性」『九州考古学』第78号 九州考古学会 2003
4. 『筑後市内遺跡群Ⅳ』筑後市文化財調査報告書第45集 筑後市教育委員会 2002
5. 註4に同じ
6. 『羽犬塚山ノ前遺跡』筑後市文化財調査報告書第48集 筑後市教育委員会 2003
7. 『筑後東部地区遺跡群Ⅳ』筑後市文化財調査報告書第36集 筑後市教育委員会 2001
8. 『筑後市内遺跡群Ⅲ』筑後市文化財調査報告書第44集 筑後市教育委員会 2002
9. 『筑後北部地区遺跡群Ⅰ』筑後市文化財調査報告書第00集 筑後市教育委員会 2005
10. 可能性としては羽犬塚山ノ前遺跡の土壙連結状側溝の例もある。
11. ・『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書—13—小郡市薬師堂東遺跡の調査』中巻 福岡県教育委員会 1988  
・早川泉「古代道路遺構に残された圧痕—波板状凹凸面の性格について—」『東京考古』第9号 1991  
・『大岩田村ノ前発掘調査報告書』都城市文化財調査報告書第14集 都城市教育委員会 1991  
・飯田充晴「道路築造方法について—埼玉県所沢市東の上遺跡の道路跡を中心として—」『古代交通研究』第2号 1993  
・近江俊秀「古代道路遺構の構造」『文化財学論集』文化財学論集刊行会 1994  
・註2に同じ  
・山村信榮「大宰府周辺の道路遺構」『季刊考古学』第46号 1994  
・近江俊秀「道路遺構の構造—波板状凹凸を中心として—」『古代文化』Vol. 47-4 1995  
・『岡田地区遺跡群』筑紫野市文化財調査報告書第51集 筑紫野市教育委員会 1996  
・近江俊秀「古代道路遺構の形態からみたその性格」『古代交通研究』第7号 1997  
・『岡田地区遺跡群Ⅱ』筑紫野市文化財調査報告書第56集 筑紫野市教育委員会 1998  
・近江俊秀「道路遺構の変遷」『古代交通研究』第10号 2000  
・山村信榮「古代道路の構造」『古代交通研究』第10号 2000  
・小鹿野亮「古代の官道—筑紫野市域における調査—」『筑紫野市史』資料編（上）考古資料 2001  
・小鹿野亮「大宰府周辺の古代官道と官衙」『古代交通研究』第12号 2003  
・東和幸「溝状遺構の一性格」『縄文の森』第2号 鹿児島県埋蔵文化財センター研究紀要 2004
12. ・木下良「『車路』考—西海道における古代官道の復元に関して—」『歴史地理研究と都市研究』上 大明堂1978  
・日野尚志「筑後国 上妻・下妻・山門・三毛 四郡における条里について」『佐賀大学教育学部研究論文集』第26集 1978  
・高橋誠一「第二節 筑後国」『古代日本の交通Ⅳ』大明堂 1979  
・松村一良「筑後地方を縦断する古代駅路」『MUSEUM KYUSHU』第9号 博物館建設推進九州会議 1983  
・日野尚志「筑後国の群家について」『佐賀大学教育学部研究論文集』第36集 1988  
・木下良「古代の交通路」『講座古代の考古地理学』5（生産と流通）学生社 1989

追記：報告書作成後、遺物整理を行ったところ第3次調査3SF35(3SD30北土層15層)図版番号16の龍泉窯系青磁と第4次調査4SF35(4SD10)図版番号72の龍泉窯系青磁が接合した。出土遺構も一連の溝（東側溝）であるため追記として報告する。

山ノ井南野遺跡第3次調査 出土遺物一覽表

S-1	
土師器	片
S-2	
土師器	坏×皿、甕、片
S-3	
須恵器	坏、蓋、甕、片、鉢
土師器	坏、小皿、椀、鉢、火鉢、土鍋、甕、大甕
磁器	青磁碗、染付、片
陶器	すり鉢、甕×壺
瓦質土器	鉢
S-4	
土師器	坏×皿、坏、土鍋
S-5	
土師器	坏、椀、片
S-10	
須恵器	坏、蓋
土師器	椀、片
S-15	
須恵器	大甕、蓋、壺
土師器	片
S-20	
須恵器	大甕、坏、甕
土師器	片
S-25	
須恵器	坏、甕、蓋、壺
土師器	皿×高坏、椀、坏×椀
S-25茶色土	
須恵器	片
土師器	片
S-25黒色土	
須恵器	片
S-30	
須恵器	甕、鉢
土師器	坏、椀、甕
磁器	白磁皿、碗
瓦器	椀
土製品	土塊
S-30下層	
磁器	青磁碗
S-30淡黒色土	
須恵器	坏、壺×甕
土師器	坏×皿、片
石製品	砥石
S-30暗黒色土	
土師器	坏×皿片、坏、片
S-30土層⑮	
磁器	青磁碗
表土	
土師器	片
磁器	皿

山ノ井南野遺跡第4次調査 出土遺物一覽表

S-2	
土師器	片口鉢、小皿
黒色土器	A類椀
S-1a	
須恵器	甕
土師器	甕、片
S-1③	
須恵器	甕
土師器	坏、甕
S-1b	
須恵器	蓋、甕
土師器	坏
S-1④	
須恵器	皿、壺、甕
土師器	坏、鉢、甕
S-1壙底	
須恵器	蓋、壺
土師器	坏、皿、椀、甕
S-7	
須恵器	甕
土師器	坏
S-10黒色土	
須恵器	壺、甕、壺×甕
土師器	坏、小皿、甕
黒色土器	B類椀
磁器	青磁碗
陶器	皿？
S-10①	
須恵器	甕×壺、鉢
土師器	小皿、片
金属	滓
石製品	砥石
S-10淡灰黒色土	
須恵器	甕、壺
土師器	坏、蓋、椀、甕
黒色土器	A類椀
磁器	青磁片
S-10灰色砂	
土師器	坏
S-10②	
土師器	片
S-10灰色粘	
須恵器	甕、甕×壺
土師器	坏、甕
黒色土器	B・A類椀
S-10暗灰粘	
須恵器	甕
土師器	坏、皿、椀
黒色土器	A類椀
S-10③	
須恵器	壺
土師器	坏
S-10	
須恵器	壺
土師器	坏、甕
磁器	白磁
表土	
土師器	甕
磁器	染付
陶器	鉢、甕
土製品	人形

Tab. 4 山ノ井南野遺跡第3次遺物観察表

【単位はcm、( )は復原値、`は残存長】

遺構	S-番号	Fig.	番号	R番号	名称	器種	口径	底径	器高	残存	備考
3SD03	03	11	1	04	須恵器	蓋	-	-	1.35°	体部細片	
3SD03	03	11	2	06	須恵器	甕	-	-	3.25°	体部細片	
3SD03	03	11	3	07	須恵器	甕	-	-	6.90°	体部細片	
3SD03	03	11	4	05	須恵器	束播鉢	-	-	5.70°	口縁細片	
3SD03	03	11	5	02	土師器	甕	-	-	2.75°	口縁細片	
3SD03	03	11	6	01	土師器	土鍋	-	-	2.65°	口縁細片	
3SD03	03	11	7	03	瓦質土器	火鉢	-	-	6.80°	口縁細片	
3SD03	03	11	8	08	同安系青磁	碗	(17.00)	-	2.50°	口縁1/16	
3SD03	03	11	9	09	瀬戸美濃	輪花皿	-	(9.25)	1.15°	底部1/8	
3SD03	03	11	10	10	唐津陶器	鉢	-	(11.30)	2.60°	底部1/8	
3SD05	05	11	11	01	土師器	坏	(13.00)	-	3.30°	全形1/5	
3SD05	05	11	12	02	土師器	坏	-	(5.85)	1.15°	底部1/9	
3SD05	05	11	13	03	土師器	大椀	-	(10.55)	4.10°	底部1/4	
3SF35(3SD30)	30北土層1~16	11	14	13	須恵器	大坏	(17.50)	-	5.20°	全形1/8	
3SF35(3SD30)	30北土層1~16	11	15	14	安山岩	砾石×石皿	-	-	-	-	600g
3SF35(3SD30)	30北土層15	11	16	15	龍泉系青磁	碗	-	-	3.10°	下半部細片	
3SF35(3SD30)	30北土層17	11	17	12	土師器	坏	(13.95)	-	5.90°	全形1/4	
3SF35(3SD30)	30北土層17	11	18	16	龍泉系青磁	碗	-	-	5.50°	体部細片	
3SF35(3SD30)	30	12	19	01	須恵器	甕	-	-	7.15°	体部片	
3SF35(3SD30)	30	12	20	09	須恵器	甕	-	-	7.80°	体部片	
3SF35(3SD30)	30	12	21	02	須恵器	束播鉢?	-	-	5.50°	口縁片	
3SF35(3SD30)	30	12	22	10	土師器	坏	-	-	2.70°	口縁細片	
3SF35(3SD30)	30	12	23	07	土師器	坏	-	(6.00)	1.50°	底部1/4	
3SF35(3SD30)	30	12	24	08	土師器	坏	-	(6.10)	1.50°	底部1/4	
3SF35(3SD30)	30	12	25	06	土師器	椀	-	(7.10)	1.00°	底部1/4	
3SF35(3SD30)	30	12	26	11	瓦器	椀	-	-	3.40°	体部細片	
3SF35(3SD30)	30	12	27	05	白磁	皿	(10.30)	-	2.50°	全形1/4	
3SF35(3SD30)	30	12	28	03	白磁	碗	-	-	3.00°	体部細片	
3SF35(3SD30)	30	12	29	04	白磁	碗?	-	-	1.25°	口縁細片	
3SF35(3SD25)	25	12	30	02	須恵器	坏	-	(7.40)	3.00°	底部1/3	
3SF35(3SD25)	25	12	31	04	須恵器	甕	-	-	3.90°	体部細片	
3SF35(3SD25)	25	12	32	08	須恵器	甕	-	-	10.00°	体部細片	
3SF35(3SD25)	25	12	33	03	須恵器	甕	(18.40)	-	5.00°	口縁1/8	
3SF35(3SD25)	25	12	34	01	須恵器	壺	-	(16.60)	4.75°	底部1/4	
3SF35(3SD25)	25	12	35	06	土師器	皿?	-	-	1.80°	底部細片	
3SF35(3SD25)	25	12	36	07	土師器	大椀	-	(11.40)	2.20°	底部1/4	
3SF35(3SD25)	25	12	37	05	土師器	高坏	-	(12.90)	1.70°	全形1/8	
3SX20	20	12	38	01	須恵器	壺	(21.50)	-	3.30°	口縁1/2	
3SX20	20	12	39	03	須恵器	壺	-	-	3.05°	口縁細片	
3SX20	20	12	40	02	須恵器	甕	-	-	6.20°	体部細片	
3SX15	15	12	41	01	須恵器	甕	-	-	6.40°	体部細片	
3SX10	10	12	42	03	須恵器	坏	-	(9.50)	1.10°	底部1/5	
3SX10	10	12	43	02	須恵器	蓋	(2.75)	-	1.55°	つまみ部	
3SX10	10	12	44	01	土師器	椀	-	(7.10)	1.55°	底部1/8	

Tab. 5 山ノ井南野遺跡第4次遺物観察表

【単位はcm、( )は復原値、°は残存長】

遺構	S-番号	Fig.	番号	R番号	名称	器種	口径	底径	器高	残存	備考
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	45	02	須恵器	壺	-	-	3.10°	頸部細片	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	46	01	須恵器	壺	-	-	2.90°	肩部細片	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	47	05	土師器	小皿	(9.30)	(7.90)	0.90	全形1/4	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	48	03	黒色土器	B 椀	-	-	1.80°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	49	06	青磁	碗	(15.70)	-	2.60°	口縁1/16	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	50	07	青磁	碗	(18.00)	-	5.50°	全形1/5	
4SF35(4SD10)	10黒色土	21	51	04	陶器	皿	-	-	1.00°	口縁細片	
4SF35(4SD10、①)	10・①	21	52	02	東播系	片口鉢	-	-	7.20°	口縁細片	
4SF35(4SD10、①)	10・①	21	53	01	土師器	小皿	-	-	1.10°	細片	
4SF35(4SD10、①)	10・①	21	54	03	安山岩	すり石	長6.35	幅4.20	厚2.40	-	重さ83.2g
4SF35(4SD10、①)	10・①	21	55	05	安山岩	すり石					実測図別紙
4SF35(4SD10、①)	10・①	21	56	04	金属	滓	長4.15	幅1.70	厚1.50	-	重さ5.7g
4SF35(4SD10)	10灰色砂	21	57	01	土師器	椀	-	-	3.30°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10淡灰黒色土	21	58	01	土師器	蓋	2.60	-	0.75°	つまみのみ	
4SF35(4SD10)	10淡灰黒色土	21	59	02	土師器	甕	-	-	2.50°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10淡灰黒色土	21	60	03	土師器	椀?	(18.00)	-	2.70°	口縁1/8	
4SF35(4SD10)	10淡灰黒色土	21	61	04	青磁	碗	-	-	3.30°	底部1/4	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	62	01	須恵器	壺	(16.40)	-	4.40°	口縁1/4	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	63	02	土師器	椀	-	-	3.15°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	64	03	土師器	椀	-	-	2.10°	底部細片	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	65	04	土師器	甕	-	-	4.05°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	66	05	黒色土器	A 椀	-	-	2.80°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	67	07	黒色土器	B 椀	-	(8.40)	2.20°	底部1/4	
4SF35(4SD10)	10灰色粘	21	68	06	黒色土器	B 椀	-	-	2.00°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10暗灰粘	21	69	01	土師器	椀	-	-	4.90°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10暗灰粘	21	70	02	黒色土器	A 椀	-	-	3.00°	口縁細片	
4SF35(4SD10)	10暗灰粘	21	71	03	黒色土器	A 椀	-	(8.40)	2.10°	底部のみ	
4SF35(4SD10)	10・3	22	72	01	須恵器	壺	-	-	5.25°	肩部片	
4SF35(4SD10)	10	22	73	01	白磁	碗	-	-	3.05°	口縁細片	
4SD35(S-2)	02	22	74	02	土師器	片口鉢	-	-	2.50°	口縁細片	
4SD35(S-2)	02	22	75	01	土師器	小皿	-	-	0.80°	底部細片	
4SF35(4SD01、a)	01a	22	76	01	黒色土器	A 椀	-	-	2.40°	口縁細片	
4SF35(4SD01、③)	01・③	22	77	01	須恵器	甕	-	-	7.70°	体部細片	
4SF35(4SD01、③)	01・③	22	78	02	土師器	坏	(11.00)	3.25	6.10°	全形1/4	
4SF35(4SD01、b)	01・b	22	79	01	須恵器	大蓋	(12.00)	-	1.50°	つまみ1/8	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	80	01	須恵器	皿	(12.10)	1.25	9.00°	全形1/3	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	81	08	須恵器	壺	-	10.20	13.60°	復元体部のみ	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	82	03	須恵器	甕	-	-	6.45°	体部細片	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	83	02	須恵器	甕	-	-	4.00°	口縁細片	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	84	04	土師器	坏	(12.20)	7.70	12.20°	体部1/6	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	85	05	土師器	坏	(15.00)	(8.20)	3.60	体部1/2	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	86	07	土師器	小甕	(20.00)	9.30	14.20	復元完形	
4SF35(4SD01、④)	01・④	22	87	06	土師器	鉢	(22.90)	-	6.95°	体部1/5	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	88	06	土師器	坏	12.60	7.55	3.35	復元ほぼ完形	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	89	07	土師器	坏	(14.20)	(7.65)	3.10	全形3/4	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	90	02	土師器	坏	15.10	7.95	4.10	復元完形	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	91	05	土師器	坏	-	-	2.50°	口縁細片	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	92	04	土師器	坏	-	-	1.50°	底部細片	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	93	01	土師器	皿	15.00	10.60	2.20°	復元完形	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	94	03	土師器	椀	-	(8.00)	1.15	底部1/3	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	22	95	09	土師器	甕	(26.00)	-	19.00°	全形1/5	
表土	表土	23	96	01	土製品	人形	長1.80	幅2.95	厚0.65	完存	
4SF35(4SD01壙底)	01壙底	-	-	08	土師器	甕	-	-	15.40°	体部片	未掲載

# PLATE

## 凡 例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



1

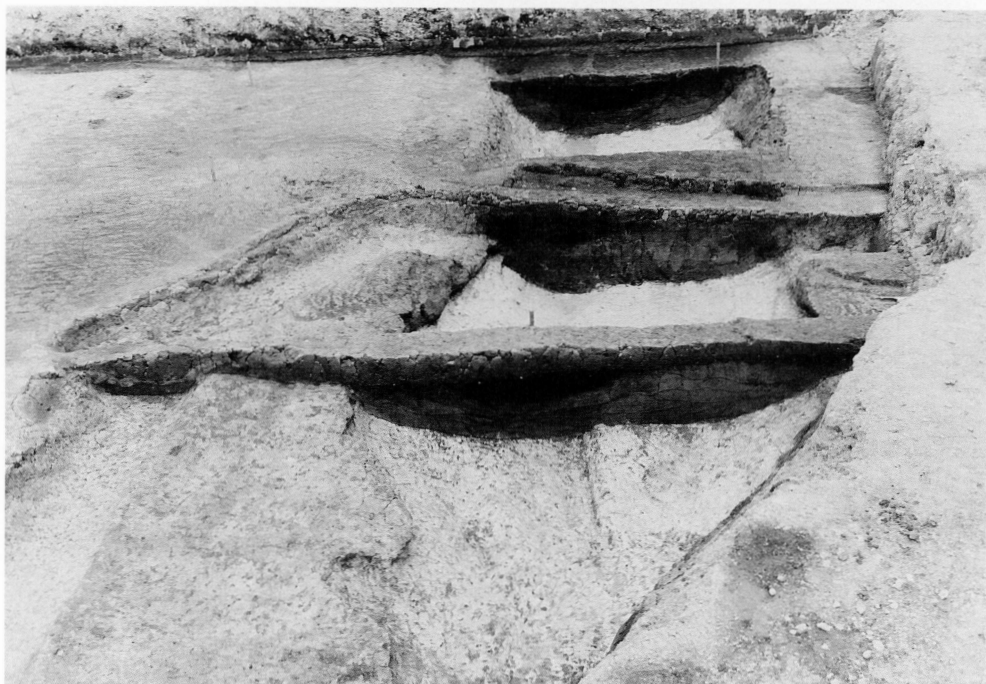
遺物番号



山ノ井南野遺跡第3次調査 道路遺構部分 全景（北から）

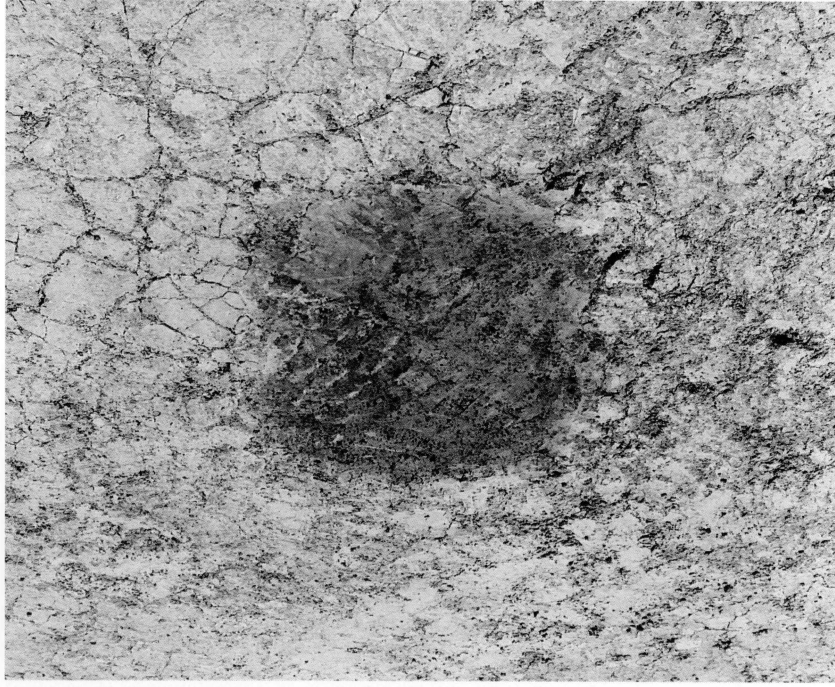


山ノ井南野遺跡第3次調査 道路遺構部分 全景（南から）



3SD03、04、05土層観察（北から）

3SK01 検出状況 (北西から)

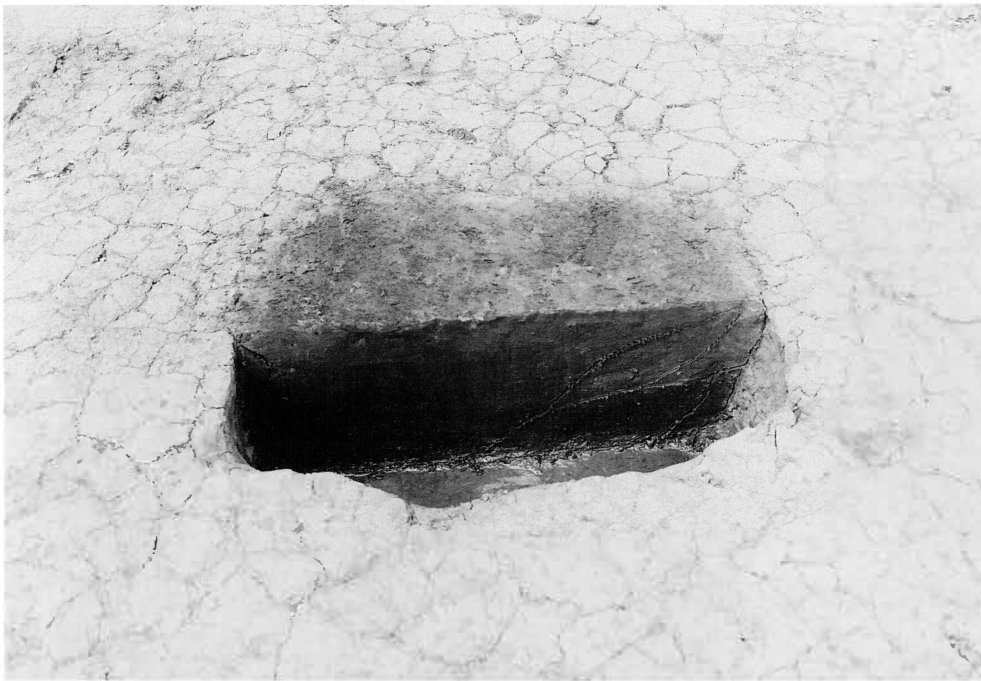


3SD05土層観察 (北から)



3SD03、04、05土層観察 (南から)





3SK01 土層観察 (南東から)



道路遺構部分検出状況 (南西から)



3SD30 検出状況 (南から)

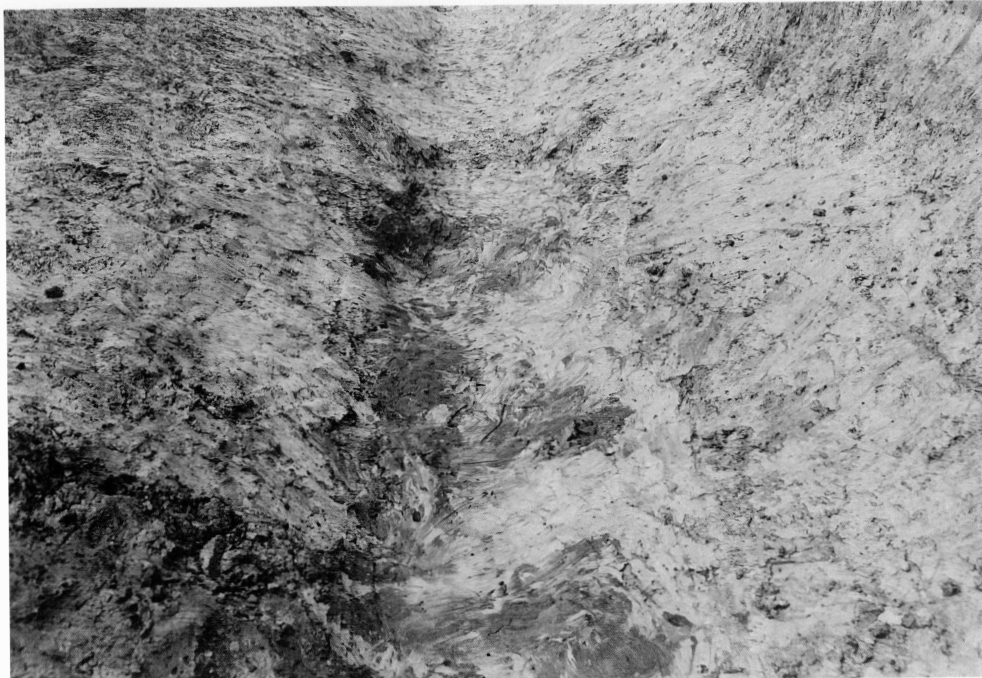




3SD30 完掘状況 (南から)



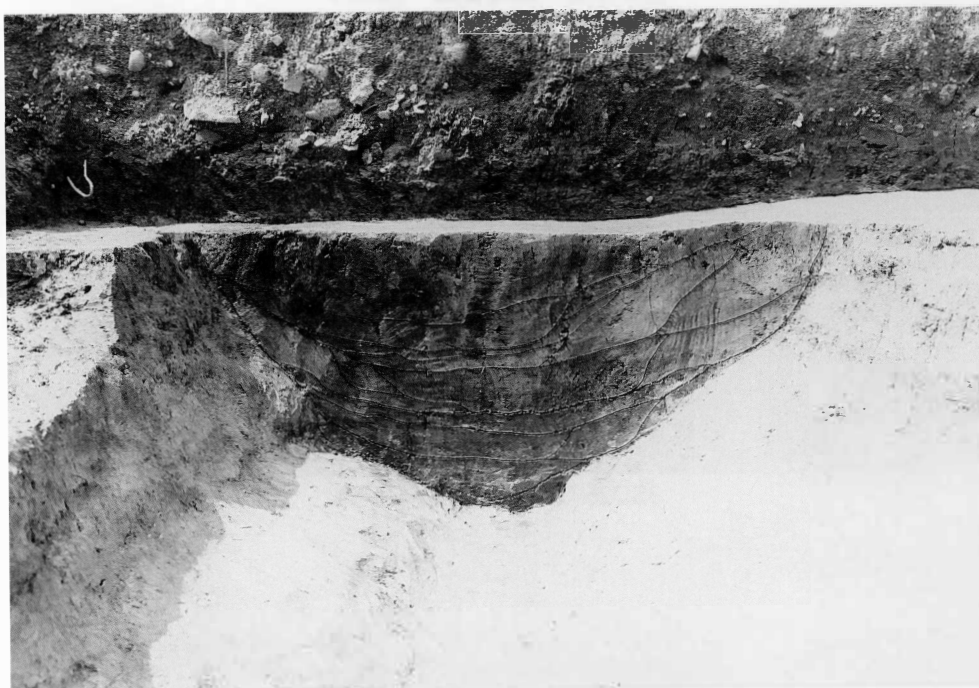
3SD30 溝底部検出状況 (南から)



3SD30 溝底部検出状況 (南から)



3SD30 土層観察 (北から)



3SD30 土層観察 (北から)



3SD25 検出状況 (南から)



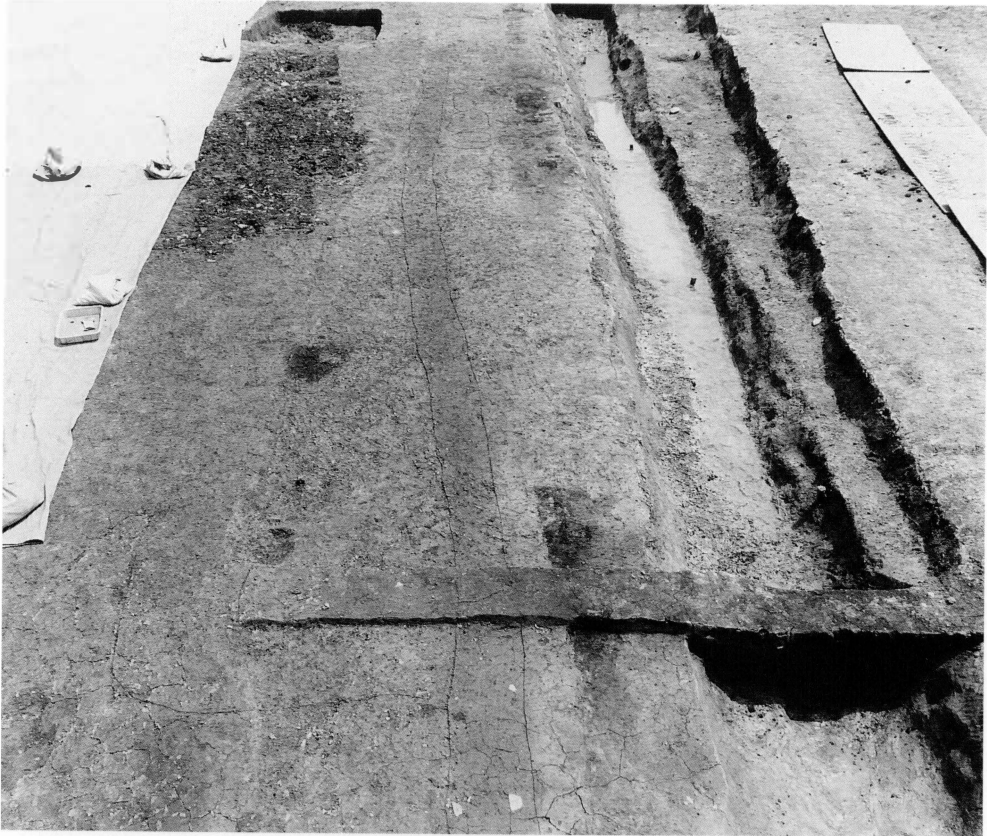
3SD25 完掘状況 (南から)



3SD25 土層観察 (北から)



3SD25 土層観察 (北から)



3SX15 検出状況 (北から)



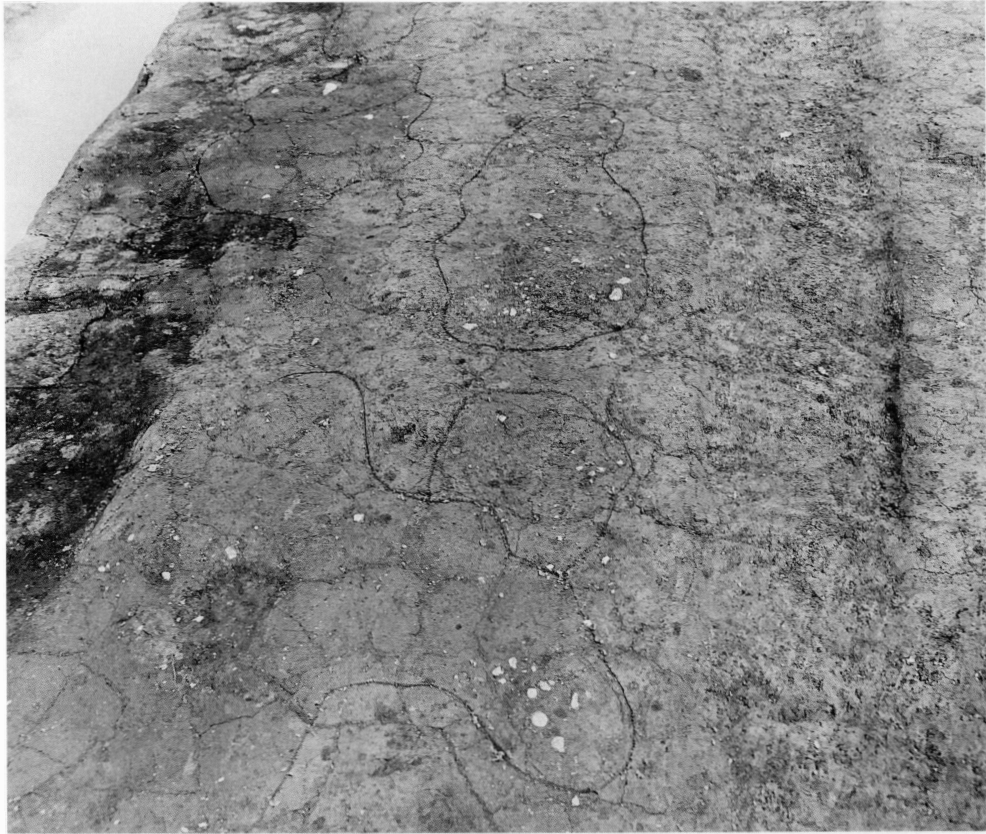
3SX15 完掘状況 3SX06、07、08検出状況 (南から)



3SX06 検出状況（南から）



3SX06 検出状況（南から）



3SX07 検出状況 (南から)



3SX07 検出状況 (南から)

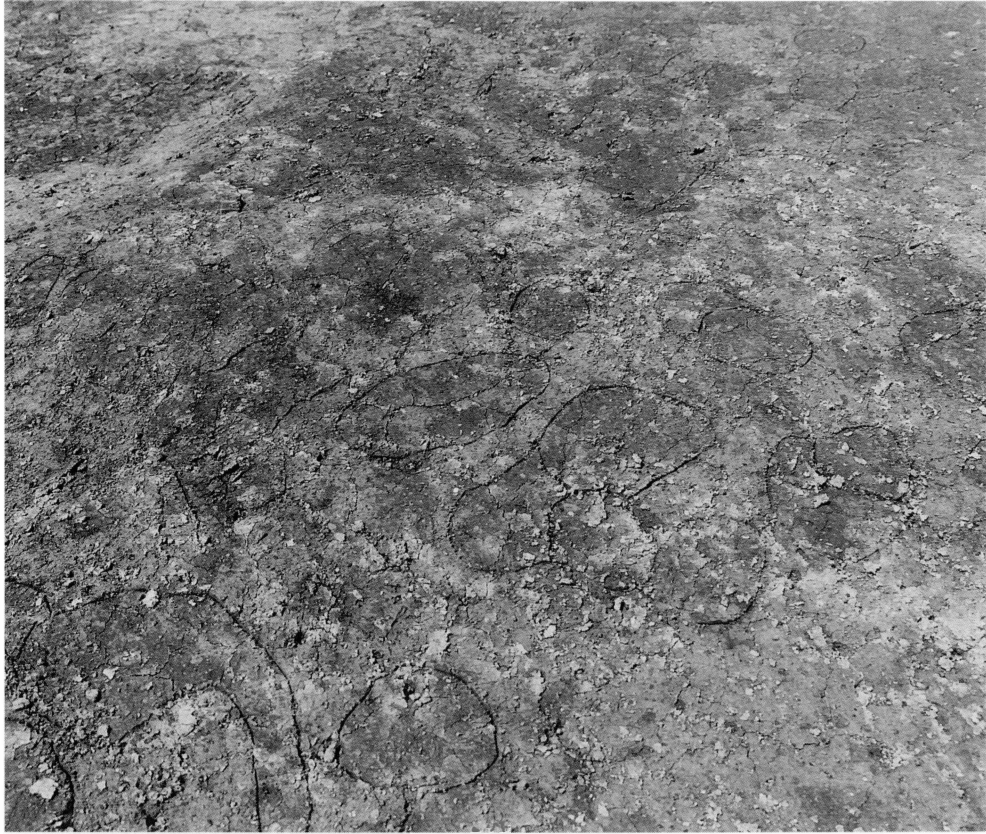


3SX08 検出状況 (南から)



3SX10 検出状況 (南から)

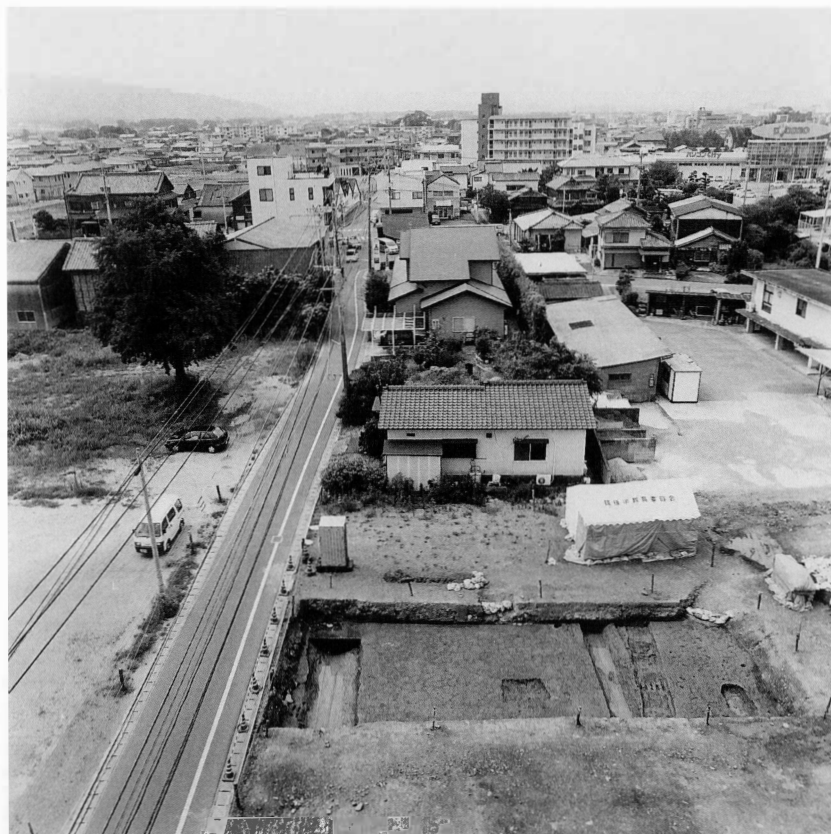




3SX10 検出状況 (南から)



3SX10 完掘状況 (南から)



山ノ井南野遺跡第4次調査 全景（北から）



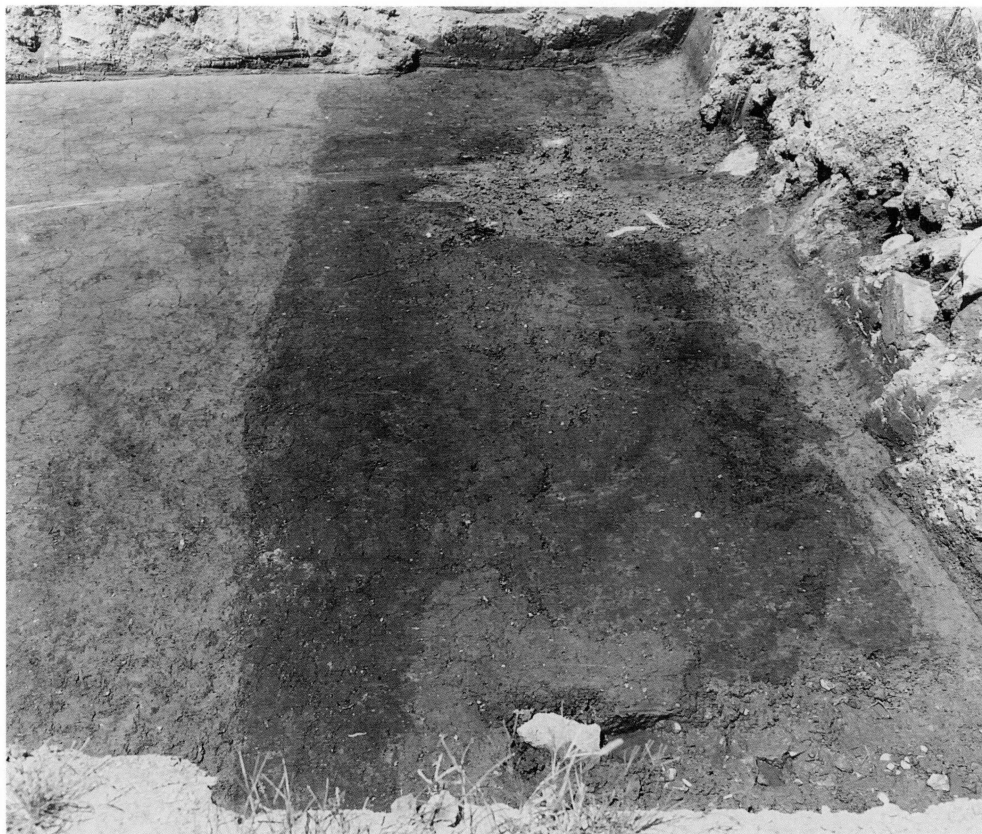
山ノ井南野遺跡第4次調査 全景（南から）



山ノ井南野遺跡第4次調査 全景（北から）



山ノ井南野遺跡第4次調査 全景（真上から）



4SD10 検出状況 (南から)



4SD10 完掘状況 (南から)



4SD10 完掘状況 (南から)



4SD10 土層観察 (北から)



4SD01、各種道路遺構 検出状況（南から）



4SD01 完掘状況（南から）



4SD01 土層観察 (北から)



4SD01 土層観察 (北から)



4SD01 土層観察 (南から)



4SD01内 土器検出状況（東から）



4SX05、各種道路遺構 検出状況（南から）





4SX05 完掘状況（南から）



4SX05、06、16 検出状況（北から）



4SX05、06 完掘状況 (南から)



4SX05、06 検出状況 (北から)



4SX09 掘り下げ状況 (南から)



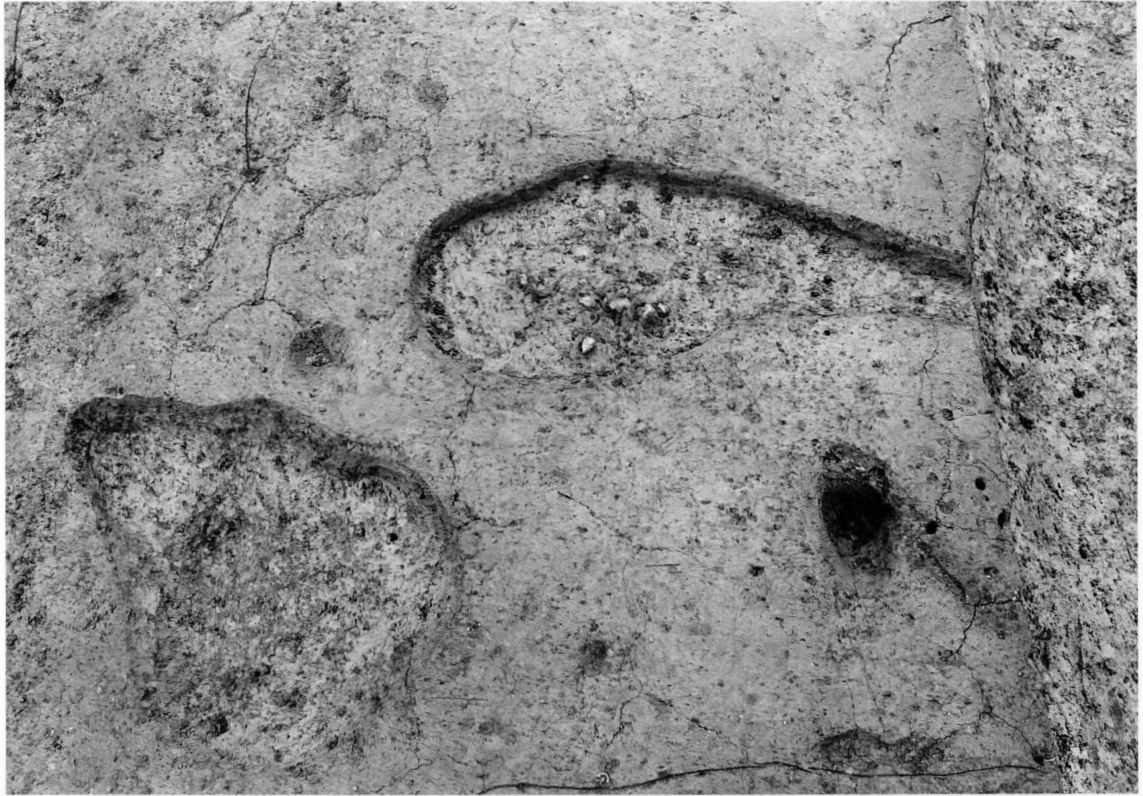
4SX13、14 完掘状況 (北から)



4SX13-a 完掘状況 (西から)



4SX13-a 土層観察 (北から)



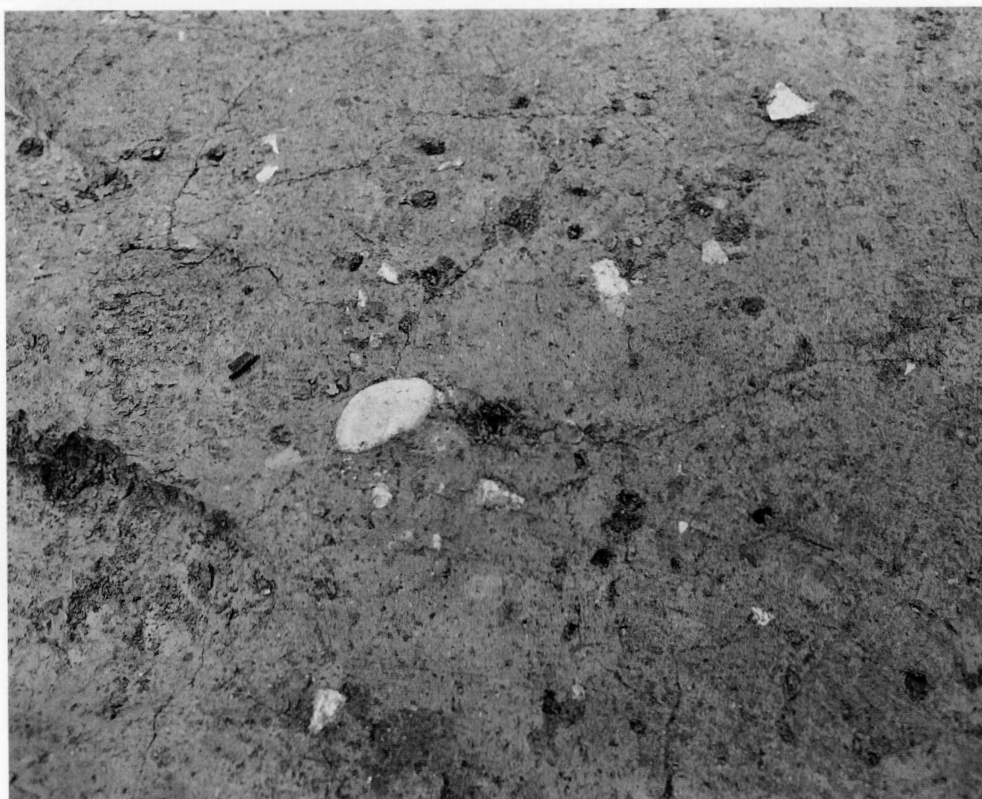
4SX13-b、c 完掘状況（北から）



4SX16 検出状況（北から）



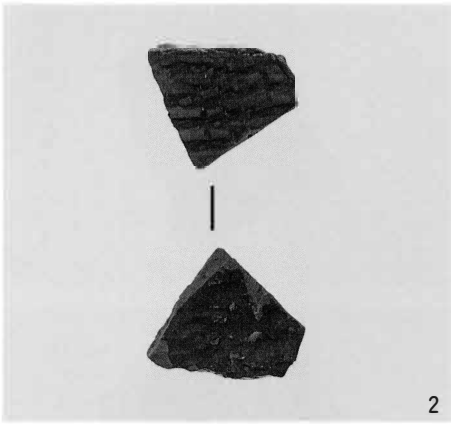
4SX16 完掘状況 (北から)



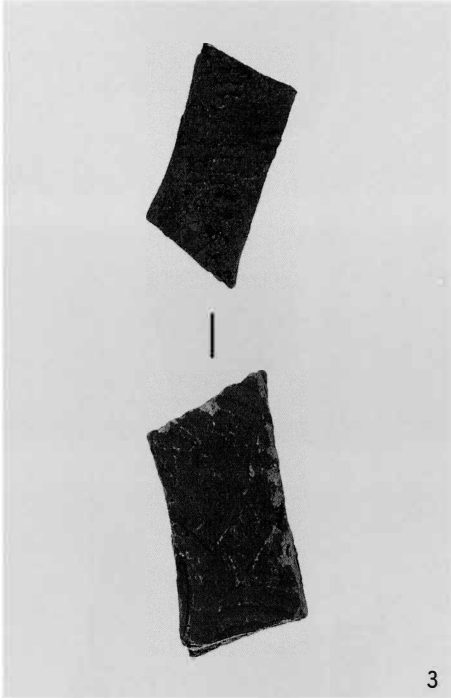
4SX08 除去後 路面部状況 (南から)



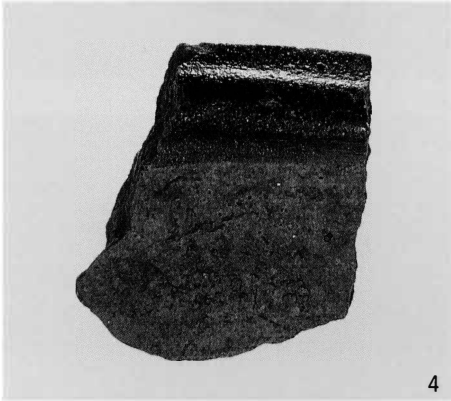
山ノ井南野遺跡第2・3・4次調査全景（デジタルモザイクにより合成している）



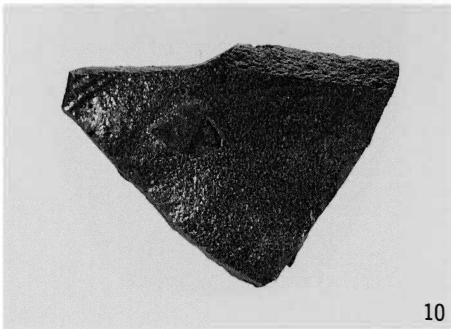
2



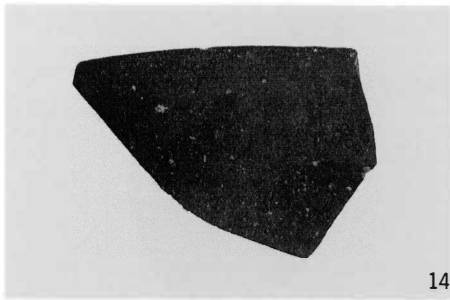
3



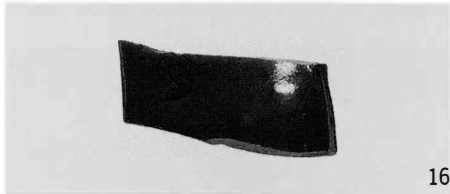
4



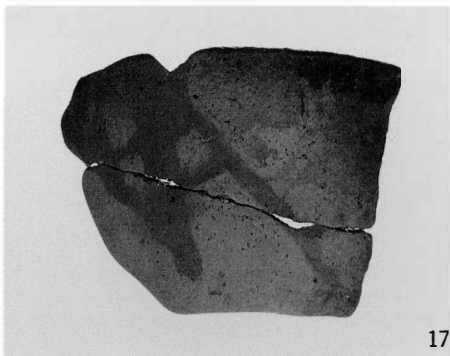
10



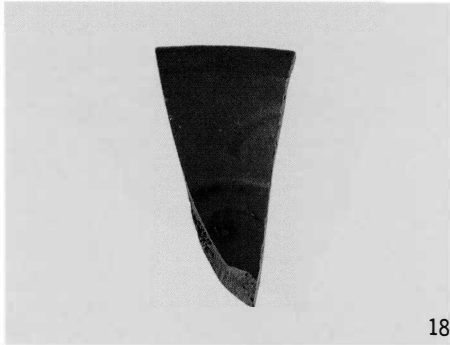
14



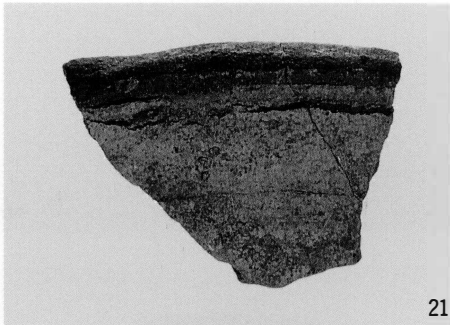
16



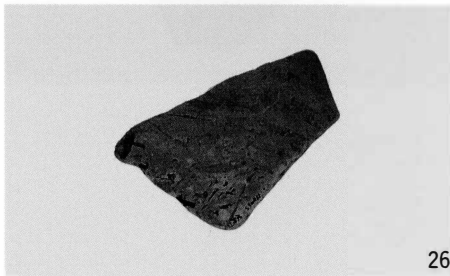
17



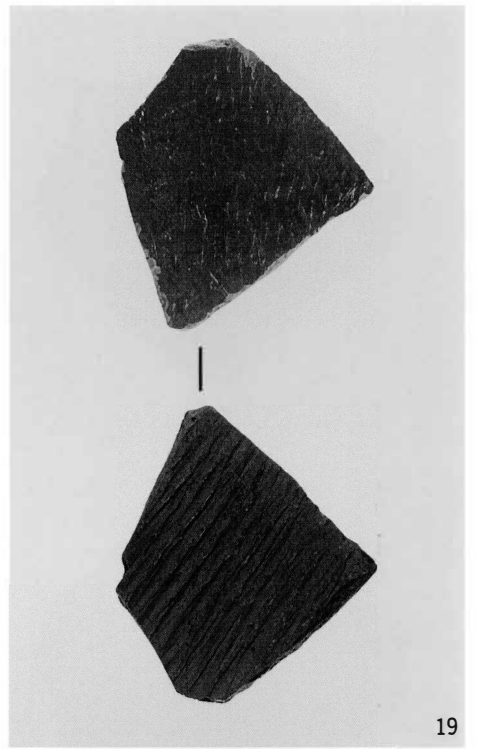
18



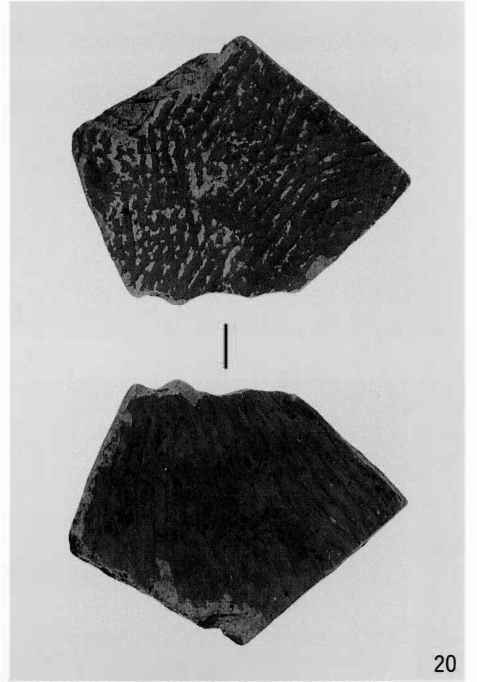
21



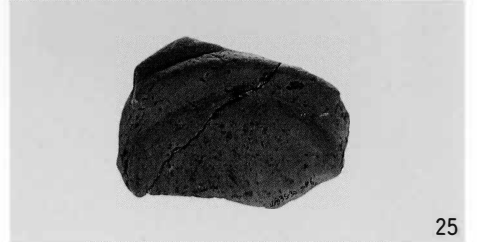
26



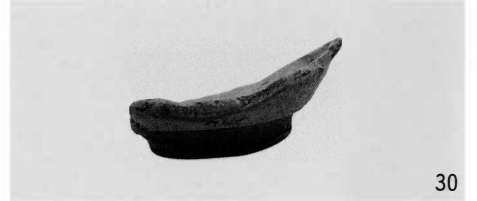
19



20

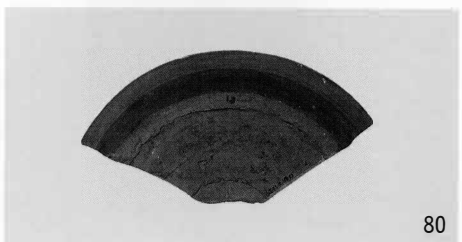
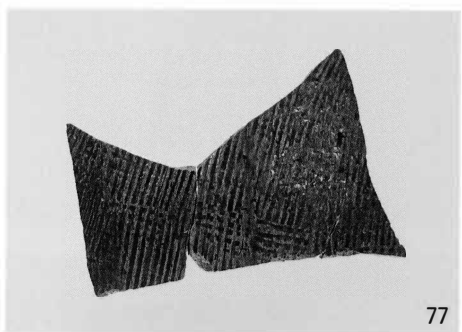
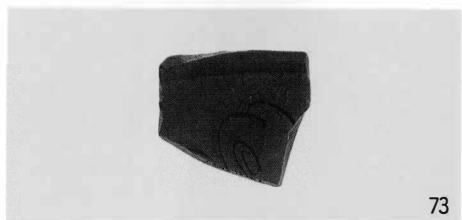
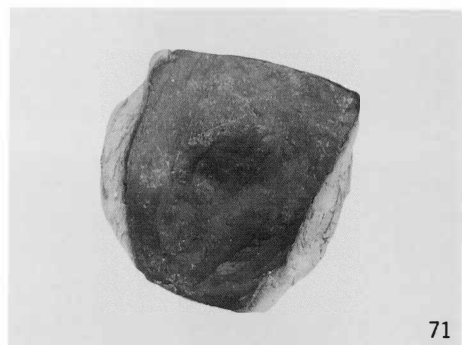
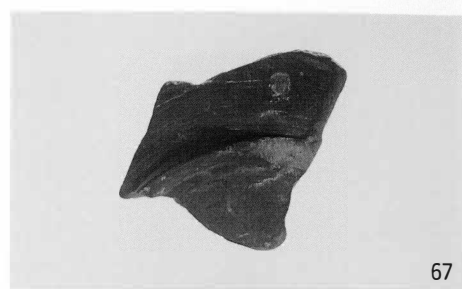
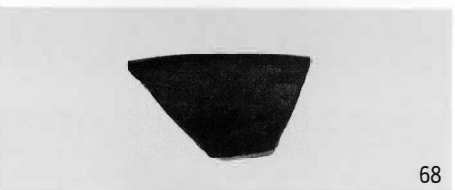
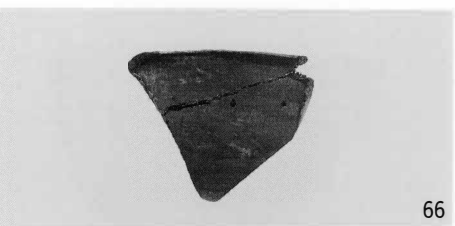
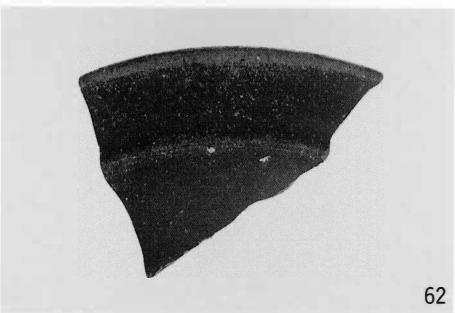
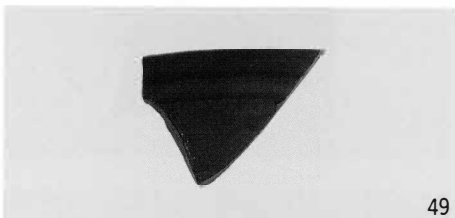
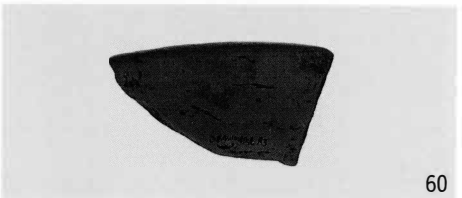
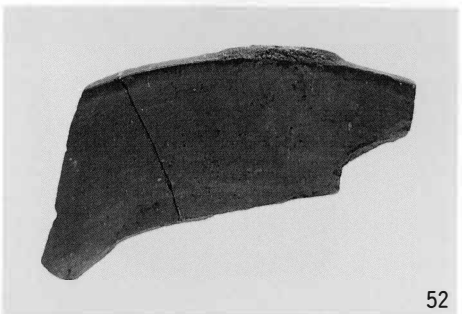
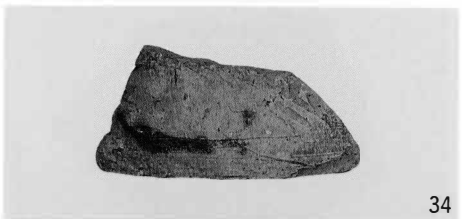
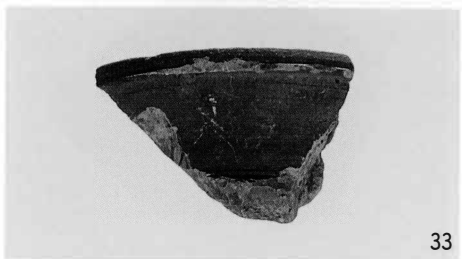
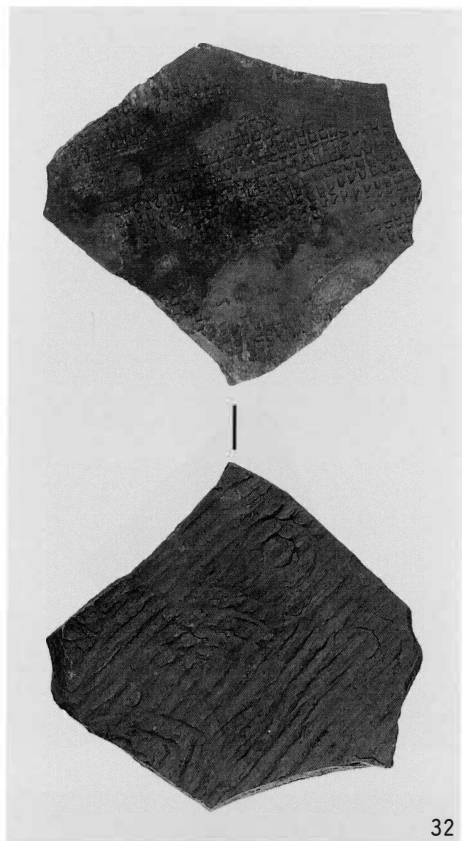


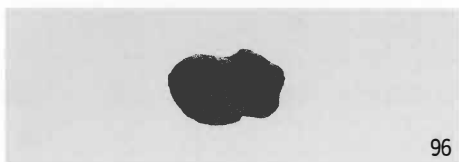
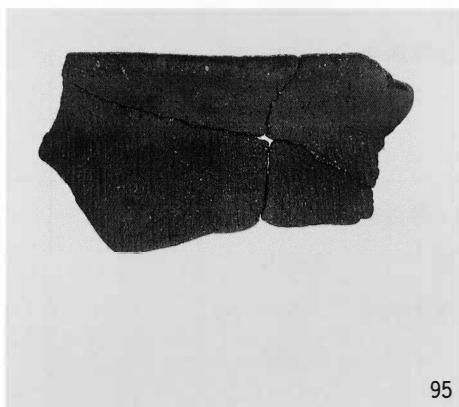
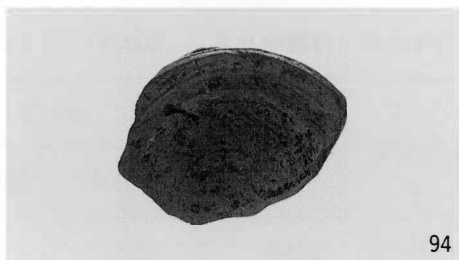
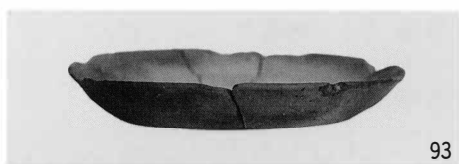
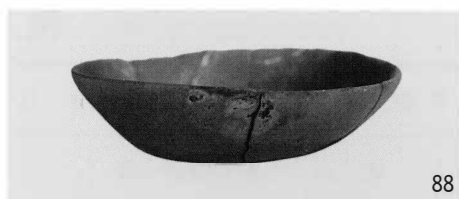
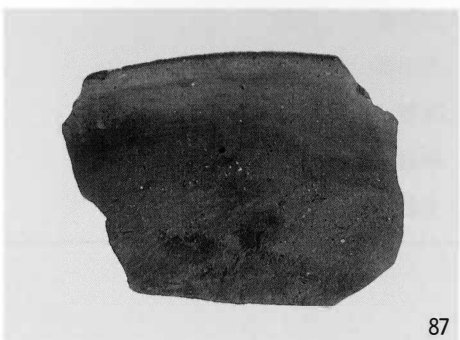
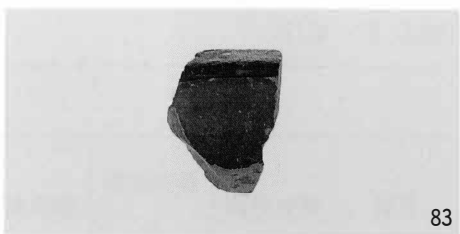
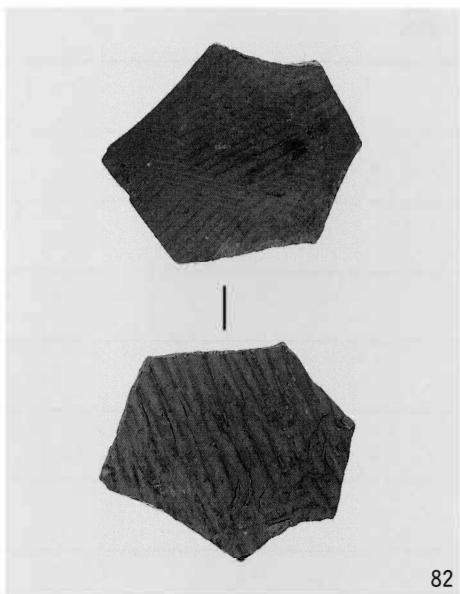
25



30







山ノ井南野遺跡Ⅱ

筑後市文化財調査報告書

第59集

平成17年3月

発行 筑後市教育委員会

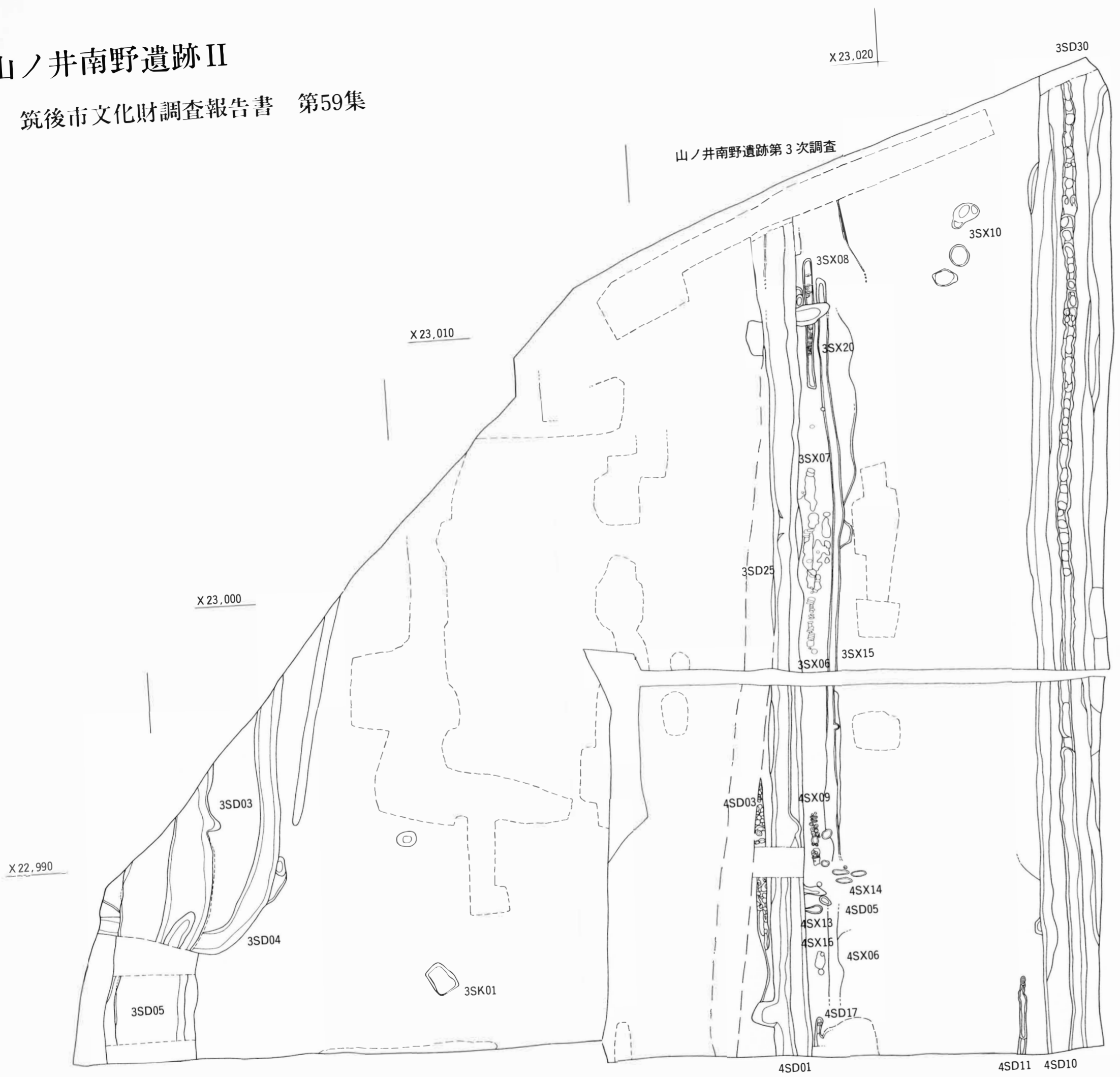
印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

TEL 0952-71-8520

# 山ノ井南野遺跡II

筑後市文化財調査報告書 第59集



山ノ井南野遺跡第2次調査